

平成29年度第4回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：平成30年2月22日（木）午後2時

場所：犬山市役所201・202会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 高木浩行 委員 千葉桂子 委員 紀藤統一
委員 田中秀佳 委員 奥村康祐 委員 小倉志保

事務局 【経営部】

江口経営部長

企画広報課

松田課長

井出課長補佐

渡邊主査

【教育部】

吉野教育部長

小島子ども・子育て監

学校教育課

武藤課長

神谷主幹兼指導室長

田中課長補佐

文化スポーツ課

上原課長

歴史まちづくり課

中村課長

子ども未来課

間宮課長

記録者 井出修平 渡邊 樹

傍聴者 0名

◆次第

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 教育振興基本計画の見直しについて

(2) 教育施策の検証について

4 自由討議

5 その他

6 閉 会

◆会議要旨

協議事項(1) 教育振興基本計画の見直しについて

今回の会議で協議した事項については事務局で調整し、市長、教育委員それぞれとすり合わせを行う。パブリックコメントなどの手続きを経て、年度内に策定するよう進めることとした。

計画の見直しについては、位置づけを「改訂」とするのか、「第2次計画」とするのか事務局で整理することとした。

議題(2) 教育施策の検証について

平成29年2月に策定した「教職員の多忙化解消に向けての対策及び働き方改革をめざした新たな提言」と学校ごとの取組みの成果、平成30年1月に策定した「犬山市部活動ガイドライン」について、事務局から報告した。

【主な意見】

- ・部活動の朝練がなくなることによって、子どもたちが朝早く学校に行かなくなるが、保護者としては、早く部活に行ってほしいという意見もある。
- ・教員、子ども、親に対する説明を受け手目線に立って丁寧に行った上で、進めた方がよい。

◆会議録

司 会 (松田企画広報課長)	みなさん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
司 会	<p>奥村委員はもうすぐ到着されます。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第4回犬山市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>開会に合わせて1点お願いを申し上げます。本日の会議は、犬山市総合教育会議運営要綱の第4条に基づきまして、公開とさせていただきます。併せましてインターネット映像配信サービス、ユーストリームの動画配信を行っております。予めご了承くださいませよう、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは開会にあたりまして、市長よりご挨拶をお願いします。</p>
山田市長	はい。みなさん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
山田市長	<p>お忙しいところ、総合教育会議ということで、皆さま方にはご参集いただきまして、ありがとうございます。ご承知のように、今一もうすぐと言いますか、3月議会がございまして、新年度の予算案を上程するということとなります。</p> <p>新年度予算も本当に色々な課題がある中で、学校に関する予算については、私としても力点を置いて予算編成をさせていただいたつもりです。楽田小学校の改修もいよいよ新校舎に着工するということであったり、エアコン設置に向けた設計を組んでいたり、或いはトイレ改修が最終年度ということで、30年度でもって終えていくということであったり、その他にも色々と学校に関係する要望事項等ある中で、着実にそれが対処できるように、限られた予算の中で私なりに意識をして編成をさせていただきました。</p> <p>以前から申し上げているように、「ふるさと納税」の方も順調に伸びていまして、今年度は4億に達する金額になろうとしています。もちろん、ふるさと納税はご承知のとおり、返礼品の経費であったり、犬山の人が市外に寄付した場合の税の控除であったり、差し引きすると手元に残る分は4億まではいかないわけですが、少なくとも「市長におまかせ」ということでご寄付をいただいた財源分については、全て教育関係の予算に充当させていただいたということをご理解をいただきたいと思っております。</p> <p>いずれにしても、今日の協議事項はいよいよ振興計画のとりまとめの大詰めにきておりますので、また皆さま方にはご指導いただきながら、協議事項の方もしっかり煮詰めていきたいと思っておりますので、ご指導賜りますことをよろしくお願い申し上げます。私の冒頭のあいさつとさせていただきます。今日はよろしく申し上げます。</p>
司 会	ありがとうございました。

	続きまして、滝教育長、よろしくお願いします。
滝教育長	はい。みなさん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
滝教育長	<p>この冬は本当に大変寒い日が多くございました。北陸、東北、北海道の方では例年以上の大雪で随分難儀をされてみえるということを知っておりますけれども、こちらの方としては、雪の降る回数は結構多かったのですが、積もって困るということは比較的少なかったのかな、と思っております。ここ数日ー今日も含めて比較的暖かい日が続いておりまして、少しずつ春がやってきているのだな、ということを実感している次第であります。</p> <p>はじめに「インフルエンザの関係」でありますけれども、今年是全国あちらこちらでインフルエンザによる学級閉鎖が相次いでおります。犬山でもここまで35学級ー今週の頭のところでは少し落ち着いてはいましたが、今日、東部中学校の3年生が「明日まで学級閉鎖をする」ということで、新たに連絡があったわけでありまして、小中合わせて200近い学級数があるわけですが、その35学級が閉鎖をするということで、割合にしますと約17%の学級が閉鎖をしておる状況でございます。詳細については、私立の一般入試も終えてホッとしたところもあるかと思っておりますが、大事をとって今回の東部中学校については、閉鎖を行ったということでございます。</p> <p>それから2点目ですが、2月8日木曜日に教育懇談会を実施いたしました。学校教育以外の教育関係者の方を交えて行いました。参加者は塾を運営される方が5名、主任児童委員の方が5名、そして教育委員ということで、外部からは10名ほどーそんなに多くはなかったわけでありましてけれども、非常に有意義な会であったな、ということをおもっております。その中で「2学期制」についても話題になったわけでありまして、中には「3学期制より2学期制の方が大変ではないですか」というような印象を持たれた方もみえましたが、当初の2学期制導入の趣旨を十分踏まえて学校教育を進めて行くと、本当にもっと現場は大変な状況であってもおかしくはないかな、ということは思わないわけでもありませんけれども、これについても今後、検討を進めていきたいと思っております。</p> <p>それから2月14日水曜日、女性議会がございました。やはりここでも2学期制について話題になっていたわけでありまして、先生方、保護者の方もそうではありますが、市民の方を交えて、2学期制について、当初の趣旨を踏まえながら一度議論をする場を来年度持つことが必要かな、と思っております、事務局の段階ではありますけれども、どんなふうにそういう会をもっていこうかと、今、検討をし始めたところでございます。</p> <p>4点目でございます。2月20日 火曜日、いぬやまスポーツコミッションが設立されました。市長が会長に就任されましたが、今後犬山市の事業展開ーこのいぬやまスポーツコミッションの事業展開が非常に楽しみだな、ということを実感しております。</p> <p>それから最後ですが、2月26日、犬山城の鯉瓦が上げられる予定になっております。何か病気・ケガがやっとならぬ、というような気分でありまして、また3月になってから、その記念のイベントを計画していくようになりますが、とりあえず2月26日の時点で鯉瓦が上げられる予定になっております。</p> <p>本日は本年度最後の総合教育会議であります。冒頭、市長のお話にもありましたが、3月議会が2月28日からスタートします。教育については非常に大きな目</p>

	<p>を開けていただいて、予算をお認めいただいた部分もございます。学校現場も教育委員会も本年度のまとめをすると同時に来年度に向けてしっかりと準備を進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。以上です。</p>
司 会	<p>ありがとうございました。</p> <p>なお、アドバイザーとしてお願いしております犬山高等学校の祖父江校長先生、そして犬山南高等学校の木和田校長先生でございますが、本日、高等学校入試の願書提出日でありますので、ご欠席のご連絡をいただいております。ご報告をさせていただきます。</p> <p>それでは会議の前に既に配布させていただきました資料の確認をさせていただきます。次第と名簿に続きまして、資料の1の1がございます。「犬山市教育振興基本計画改訂版」の案の修正箇所の説明でございます。続いて資料の1につきましては、「犬山市教育振興基本計画改訂版」の案でございます。続いて資料の2につきましては、「教職員の多忙化解消に向けての対策及び働き方改革をめざした新たな提言」でございます。最後に資料の3につきましては、「平成30年度 犬山市部活動ガイドラインのお知らせ」と「部活動についてのガイドライン」でございます。以上4点でございますが、お揃いでしょうか。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。これ以降は犬山市総合教育会議運営要項第3条の規定によりまして、市長に進行をお願いします。よろしく申し上げます。</p>
山田市長	<p>では、協議事項を進めて行きます。</p> <p>まず、1点目の「教育振興基本計画の見直しについて」ということです。ボリュームがかなりあります。限られた時間の中で議論を進めて行きたいというふうに思っておりますので、ご発言にあたっては簡潔に、ご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>議論の進め方ですが、まず、市長部局といたしますか、私の方から提示したものと、みなさんの方でご議論いただいて直したものと、青字で書いてあったり、赤字で書いてあったり色々ありますが、進め方としては、順番に整理していくということでもいいですか。そういうことですね。</p>
出席者	はい。
山田市長	<p>はい。では、まず青字で1、2と書いてあるものは、私の方の見解と教育委員の皆さんの見解とそれぞれあるものですから、これは少し後に回しまして、赤字のものを先に整理したいと思います。</p> <p>まず5ページですが、「教育に対する市民の信頼と期待に応え、より開かれた教育行政を推進するため、関係機関との綿密な連携を図り、市民とも情報共有を図ります」と赤字で修正されていますが、この点については皆さんの方はよろしいですか。</p>
出席者	はい。
山田市長	<p>はい。では、これはこのように進めさせていただきます。</p> <p>続いて11ページ……</p>
紀藤委員	8ページにまだ……。
山田市長	<p>すみません。8ページですが、一番上の「イクボス宣言、事業所内保育所整備の支援」ということで「の支援」が入っていますが、これはよろしいですね。</p> <p>はい。では、これはこのように進めさせていただきます。</p>

	<p>続いて14ページも今の8ページと同じになりますので、これはこれでよろしいかと思えます。</p> <p>続いて16ページですが、真ん中辺りに「子どもが夢を持って伸び伸びと安全に登下校できる生活環境を整えていく必要があります」ということで、僕自身はこれを削った意図がよくわかりませんが、あえて削ったというのは、なぜですか？現状、夢が無いように聞こえてしまうからですかね。削った意図は、为什么呢か。</p>
滝教育長	<p>この一文が「安全に登校できる」ということにかかっています。ですから「子どもが夢を持って安全に登校」できるわけではなくて、「子どもが夢を持って学校生活を送る」というようならいいけれども、ここに入れることによって、登下校に夢を持っているようになってしまう気が……。</p>
山田市長	<p>なるほど。そういう意味ですね。はい、理解しました。</p> <p>では、消すということによろしいですか。皆さん、これは共通認識ですね。はい。これは了解しました。</p> <p>では、17ページです。一番上の赤字ーこれは少し色々議論があるかもしれませんが、「2学期制」についての記述です。2学期制自体については、私自身も理解をしておりますし、子どもにとって大事なことだとは思いますが、皆さんも目にされたと思いますが、アンケートでは保護者の理解が進んでいないと。いいことをやっていると言っても、いいことをやっていると思われていなかったら、それは制度としてよい制度かどうかというのは、なかなか難しい判断になるので、やはり理解を深めていく必要があるだろうということ。素朴な疑問に向き合っていくことが大事かと思えます。それでこういう記述になったと思いますが、「これらの2学期制の効果に対する理解を深めるために、市民の素朴な疑問や不安に丁寧に答えていきます。これらの方法でも理解が進まない場合は、制度存続の是非について議論をしていきます。」とこういうくだりですが、これは皆さんよろしいですか。</p>
紀藤委員	<p>よろしいでしょうか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
紀藤委員	<p>文章自体にー僕自身は「理解を深めていく」ということは非常に大事なことで、入れてもいいし、「進まない場合は、是非を……」というのは、先ほど教育長さんがおっしゃったように、「来年度にまた検討を考えている」ということなので、それもいいかなと思えますが、1行目の「これらの」というのは、諸々を指していると思えますので、「また」としてはどうか、と。</p> <p>それからもう1つ2行目の「これらの方法でも」と書いてありますが、「理解が進まない場合は」として、(1行目の)「これら」、(2行目の)「これら」は取ってしまった方が、よりわかりやすいのではないかな、と思いました。</p> <p>それから市民の理解を得ないと定着したとは言えないし、定着してしまえば何も2学期制、3学期制に拘る必要が全くなくなるのではないかと。たまたま2学期制が出てきたので、3学期制の良さが見えてきたのかな、と。或いは3学期制の問題点が出てきたのかな、とか。それから3学期制と比較ができると思いますか、でも2学期制をより有効にしていく手だてというのはいくらでもあるし、それを進めて行くことで先生たちの指導力がアップ、それから子ども達の学力アップも図れるだろうし、保護者の理解を得られる方法を考えればもっと良くなるのではないかな、と考えております。</p>

山田市長	はい。他にいかがでしょうか。
田中委員	はい。
山田市長	はい、田中委員。
田中委員	<p>お願いします。前段について、私はこれでいいのかな、とっていますが、後段が色々と賛否がある状況は、もちろん前回の個人懇談会で意見を伺ったところですけれども、この文章自体が「制度存続の是非について」ということで、このような書き方になるとあまりバランスが取れていないと言いますか、どちらかというところと存続自体を無くす方向のニュアンスが少し強くなるのかな、と私自身、この文章を読むとしてしまっています。もちろん、議論していくことは当然ですので、例えば「(素朴な疑問や不安に) 丁寧に答えていきながら、継続的に制度について議論をし、検証していく」というような書きの方が客観的と言いますか、制度自体が無くなってしまいかも知れないという状況が逆に市民に不安を与えないかな、というところが少し危惧したところです。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。他によろしいですか。</p> <p>では、僕の意見を申し上げますが、まず紀藤委員がおっしゃられた「これらの」というのは、やはり無い方がいいと思うので、「また、」で始まりはいいのかな、と思います。</p> <p>それで後段も「これらの方法でも」というものを削りますが、「なお、」でもいいのかな、と思いました。いきなり「理解が進まない場合は」というより「なお」書きにしてもいいのかな、とは思いました。</p> <p>それから、少し付け加える話ですが、「市民の素朴な疑問や不安に丁寧に答えていきます」というのは、発信者目線ではいけないと思います。今まで理解が深まらなかった原因は、発信者目線で情報を伝えたからで、相手に趣旨が伝わってないというのは数字でも明らかになっているわけなので、ここには「受け手目線で丁寧に答えていきます。」と入れてはどうなのかな、とは思いました。「市民の素朴な疑問や不安に受け手目線で丁寧に答えていきます」。これは僕の意見です。</p> <p>それから後段のところですが、私はここにこのようなことを書かなければいけなくなった原因というのは、やはりこれまでの説明不足があったことは否めないと思います。それは結果論としてアンケートでも理解をされていない保護者が多いということは伝わっていないわけですので、退路を断つべきだと。要するにここで表現を曖昧にすることで、またズルズルと伝わらなくてもなんとなく続けていけばいい、ということになりかねないし、保護者というのは、子どもが卒業してしまうと関係なくなってしまうので、そこは退路を断つべきだと僕はそう思います。ですから、むしろ「制度存続について、議論していきます」ではなく、「制度存続の是非について、検討していきます」というふうに表現を強めた方がいいのではないかと、いうふうに僕は思っています。最終的な調整はまたどうするか、ということですが。</p> <p>これはここで結論を出した方がいいですか？</p>
事務局 (武藤学校教育課長)	そうですね、この後のスケジュールを考えると、この場を出していただいた方が有難いです。
山田市長	どうでしょう。みなさん、意見としては。率直にやりとりすればいいと思います。お互い見解が違いますが、それは議論ですので。
紀藤委員	よろしいでしょうか。
山田市長	はい。

紀藤委員	<p>保護者は先ほど市長が言われたように、お子さんが卒業すれば、もう関係なくなってくるので、なんとも考えないと思いますが、また入ってきた方が全て3学期制を体験している保護者が入ってくるとなると「私たちの時と違う」という一またその議論。だから、理解が進まないというのは、毎年、毎年それが続くと思います。だから、「2学期制の良さ」というのを肌で感じるように今、していこうということで、学校も努力しているので、特に中学校3年生の保護者が「受験に不利なんじゃないだろうか」と思ってみえる。事実と僕は違うと思いますが、そういう点を考えると、やはり今、学校が新たにもっと早くから進路学習、進学学習と言いますか、そういうものを進めて行こうという取り組みをしているので、このままでもいいのかな、と。ただ、存続の是非は毎年、毎年出て来てしまうのではないかな、と思いつながらも、早く保護者が「これでいいんだ。犬山のこのやり方が一番いいんだ」というふうに自信が持てる状況を作っていくべきかな、と思っています。</p>
奥村委員	はい。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	<p>私を感じたのは、この「制度存続の是非についての議論」というのは、私自身、保護者から見るとまた変わるのか、と思うと不安でしょうがない。これからまだ小さいお子さんがいると「いつ変わるの？ また変わってもらっては困るよね」という部分があると、少し不安に思うようなことがあるので、やはり今、紀藤委員が言われたように、「犬山市は2学期制です。そのいいところはこうなんですよ」ということの方が安心感が生まれて、「犬山市で良かったね」という部分があるかと思っています。もちろん「議論をする」ということはとても大事なんですけど、強く「変えて行こう」という部分に関しては、保護者側としては少し不安があるな、というふうに思います。</p>
山田市長	<p>はい。 他によろしいですか。</p>
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい、千葉委員。
千葉委員	<p>はい。私も「これらの方法で」というのは無くして、やはり質問や疑問に答えていくというのは当たり前のことであって、その後のことは別に—やはり2学期制もここまで進めてきた「これをもっと深めていきたい」という気持ちがあるなら、やはり揺らぐようなことを書くと、少し文章的に—皆さんの目で見えるものですから、色々な取り方をされると思いますので、言い切ってしまうと……。「答えていきます」と、「教育委員会はその風にしてくれるんだ」ということさえ見せておけばと私は思います。</p> <p>私は2学期制に関して、資料を付けてくださいと言った人なんです。2学期制をずっとやってきて、PR、広報がやはり少し足らなかったね、という意味でここに付けてもらいました。前、市長は「これはいらない」というようなことをおっしゃってみえたようですが、やはりことあるごとに良さ—いいことをやっているというように読めるかも知れませんが、知らせていくという意味では、この文章も含めてそこで終わっておいた方がいいかな、と私は思います。</p>
山田市長	<p>はい。 他によろしいですか。</p>
小倉委員	はい。
山田市長	はい、小倉委員。

小倉委員	<p>私もこれがこれから5年間の計画であるということで行くと、「この5年間は私たちは2学期制でいく」と一基本的にはそう思っているのですが、不安材料を解決する方法を見つけていく一例えは進路の指導のことであったり、部活のことであったり、その辺の3学期制が良かったというのは、自分たちが3学期制で生活とか学校で勉強してきたので、3学期がいいと思っただけだと思うので、もっとそこをいい所をアピールし、不安なところを取り去るようにし、「どうしようかな」という迷いはやはり出したくないな、と思います。</p>
山田市長	<p>はい。 他によろしいですか。 高木委員、よろしいですか。</p>
高木委員	<p>いいです。もう皆さんが言われた感じで。</p>
山田市長	<p>わかりました。 皆さんの意見はよくわかりますが、僕は制度というのは信頼がないとどんなにいいことをやってもダメだと思います。制度に対する信頼は、制度に関わっている期間が学校の教育の場合は限られてしまうので、みんな不満や疑問があってもその時期が過ぎてしまうと関係なくなってしまうので、それで終わってしまうのですが、現実、この間のアンケートを見て、この問題については、少し踏み込んで考えなければいけないな、というふうに僕は思いました。誤解していただきたいのは、僕は「2学期制はいい」と思っています。僕はそう思っています。ただし、その制度の効果、意味を正しく理解されていない現状があることに向き合わなければいけないと思います。それは、今までそこに素直に向き合ってきたことが現状を招いていると僕は思っています。それが数字に表れています。ですので、それは何かと言ったらいつも僕が申し上げていますが、「いいことをやっている」と「私たちはいいことをやっているんだ」と。それでいいこともPRしてもらえばいいです。僕は「2学期制のいいことのPRを発信するな」と言ったことはありません。でもみんなが素朴に思っている疑問に向き合っていません。「挽回のチャンスがなくなるのではない」か、「受験に不利になるのではないか」。依然として、市民の皆さんにとっては、そういうわかりやすい部分の疑問だとか不安というものがありますが、「そうじゃないんだ」と。「そのことについてはこうなんだ」ということはどこにも出てきません。口では説明があるかも知れませんが、でも文書等ではどこにも見えてきません。ですので、そういうことをやはり不安と疑問に丁寧に向き合っていくこと大事であって、その退路を断たなければいつまでたっても緩い状況の中で、「いいことをやっているのだから、いいんだ」ということで僕はきっと淡々と時間だけが過ぎていくというふうになると思っています。ですから、これについては私一人の思いを強要するつもりはありませんけれども、理解が進まなかった場合、ここにこれを書くかどうかは別として、誰がどう責任を持つのか。それをどう担保するのか。みんなが良くないと思っている制度はどんなにいい制度でも、それは良くないんです。「いいことなんだ」というのは、みんながそう思って初めてそこが一致するわけなので、僕は決してこの制度を否定するつもりではないですけども、やはり理解を得るための努力をもっとしない限り、こんな頼りかたで行ける話ではないと思っています。ですから、ここからもし、この記述を削除するのであれば、理解が進まなかった場合に、何らかの形で我々がこの問題にどう向き合っていくのか。その時に「やめなさい」と一僕は今、この時点で言うつもりはありません。</p>

	<p>れども、どう向き合っていくのかということは何らかの形で担保しておかないと、結局今までと同じになってしまうのではないかな、と逆に僕はそれを心配します。圧倒的に多くの人がこの制度に対して理解していない現状があるので。これは事実なので。そこはやはり僕は制度を否定する意味ではなくて、素朴な疑問や不安をどうやったら取り去れるのか。どうやったらみんなに良く思ってもらえるのか。そこをちゃんと私たちが退路を断って臨んでいくくらいの意気込みがないと、なかなかその思いが伝わらないのではないかな、と思ったので意見しているわけですが。</p>
滝教育長	はい、よろしいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>2学期制の制度そのものに問題があるのか、その制度の運用に問題があるのか、と考えた場合に、2学期制の導入当時の理念等をご理解されてみえる方で、2学期制を否定される方は多分少ないと思います。現状、確かに中3の保護者については、受験に不利だとかそういった意見もあります。今、考えていることは、まずは現場の教員に2学期制導入の当初の崇高な理念に立ち返って、「こうこうこういう意図で犬山は2学期制にしたんだ」ということを理解をしていただく機会を来年度の早めの時期に持ちたい。更には保護者や地域の方に理解をしていただくために、例えば具体的に私立高等学校の先生を呼んで、2学期制というのは受験に不利なのかどうか。もちろんそれだけの議論をするわけではありませんけれども、そういったことも含めて、2学期制は別に受験に不利ではないんだな、ということをお話していただく。それがどれだけの方にご理解をいただけるか。これは3学期制か2学期制かという議論をしたら、平行線で絶対に交わる場所はないと僕は思っているので、まずは今、それをやらなければならないことかな、と思っています。それから今、学校現場に投げかけてあるのは、市が当初から言っているのですが、「2学期制の良さが保護者に実感されなければ、最悪の場合3学期制に戻すことも有り得るんだ」と投げかけてあります。ですから今、学校は2学期制を維持してほしいがために、「いかに2学期制の良さを保護者にアピールするのか」、或いは「進路指導のあり方をどうしていくのか」ということについて、必死になって取り組んでいるところです。ですから、まだその結果はすぐには出てこないかも知れませんが、今年と来年の2年間の取り組みで2学期制についてはご理解いただける方が随分増えてくるのではないかな、というふうには理解をしております。市長の思いもわからないことはないわけですが、一番市民の声が届いてくるものですから、「2学期制をどうするの?」と。「なんとかしなくてはいけない」というお気持ちもわかりますけれども、私はこれができなければ、教育委員会の長として責任を取る覚悟ではあります。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。では削除ということをお願いします。</p> <p>ただ、「市民の素朴な疑問や不安に受け手目線で向き合う」という、「受け手目線で」向き合っていないから理解が得られてないわけなので、「受け手目線で」というものは入れてください。</p> <p>それからーこれは教育委員会だけではなくて、市役所の体質もそうなんです、私は本当にいろんなことに素直に向き合った方がいいと思います。だから、事柄から逃げたり、隠したり、ごまかしたりは、絶対にあってはいけない。そうしない方がいいと思っています。ですから、理解を得るためには自分たちの都合だけを伝えるのではなくて、相手がどこに疑問を持っていて、その疑問や不安を解消す</p>

	<p>るためにはどうしたらいいのか、ということをちゃんと考える努力をしないと理解は深まりません。そのことを強く求めてこの点については私は理解したいと思しますので、削除させていただきます。</p>
紀藤委員	<p>すみません、よろしいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
紀藤委員	<p>「受け手目線」というのは「市民の目線」ということですよね？</p>
山田市長	<p>情報を受ける側の目線です。</p>
紀藤委員	<p>僕自身は「受け手」というのはわかりますが、こういう言葉がここにぼつんと入るのがいいのか、「市民の目線」というのか、「保護者の目線」なのか。</p>
山田市長	<p>「情報の受け手目線」ですよ。効果に対する……</p>
紀藤委員	<p>言葉を入れることはいいですけど、何かその言葉を選んだ方がいいかな、と思えますが。「市民の素朴な疑問や不安に」……</p>
山田市長	<p>そうですね。そこは少しまた言葉を考えてください。</p>
田中委員	<p>ちょっとよろしいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
田中委員	<p>後段のところですけども、逆に「削除で本当にいいのか」ということを私はやはり思うところで、例えばここまで「新しい振興基本計画が出る前に検証した結果、理解度が非常に低かった」と。それで「では次にどうするのか？」ということで、最終的に5年後に「この制度は本当に必要なかどうか」ということをもちろん検証するの必要はありますけれども、それに「ここまで理解度が低かった」と、それで前段のところ「疑問や不安に丁寧に答える」と。それでその1つとして前回は「懇談会」ということがありました。そういう場が一つありますけれども、その他に「具体的な方法」－具体的に「ではどういう方法で理解を図るのか」とか、「それは効果があるものか」ということを実証していくというような、もしこの時点で、例えば「こういう方法でこういう取り組みをすることによって……」というような方が一書けるのであれば、むしろ具体的に明記して「退路を断つ」という表現がありましたけれども、やはりある程度緊張感を持って、「こういうことを必ずやっていきます」ということは、可能であれば書きこんでもいいのか、と。そして「それをもって検証してきます」というところまで書いてもいいのかな、というのは思ったところです。</p>
山田市長	<p>そうですね。「なぜ理解が深まっていないのか」という原因があると思います。理解が深まっていない原因をどう捉えるかということにもかかわってくると思いますが。</p>
高木委員	<p>いいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
高木委員	<p>今、「原因」という言い方をされましたが、実際の問題として、この「2学期制」に深く関心のある保護者というのは、やはり中学校の2年生、3年生というのが現実だと思っています。小学校6年生、中学校低学年ぐらいたとさほど意識はしていないというのが現状だと思っています。色々なところで聞こえてくるのは、やはり「進路」を直接目の当たりにした保護者さんが声を上げられているということが現状である点で、そこら辺のところやはり定例教などで話題が出て来て、今、「もう一度進路指導自体の取り組み方を考えないと」ということで、今、やっつけられているところではあると思っています。そしてもう少し言うとなんて言ってしまうと「進学指導」なんです。それを今年度ぐらい、やはり各学校に事務局</p>

	<p>の方からおろしてもらって、それを先取りした形でもっともっと早めに情報を伝えていくという進学指導を今、やってもらっていて、先日の懇談会の中でもある民生児童委員の保護者さんが、「2年生の時にそれをやってもらったので、随分違いました」という声が聞こえてきたところですので、今、言った指導をもう少し強くというか早めに進めていただくと、現場の中でやってみた結果が少し出てくるのではないかな、と。私は、少し期待しすぎかもしれませんが、そういう指導を今、現場の方では進めてもらっていますので、それをもう少し深めていくこと自体が今の保護者の不安を解消していく一つの—実際の文面以外のところでやっているところではあるかな、というふうには—直接この文面とは関係ないものかも知れませんが、思っていますので、しばらく様子を見たいということも正直思っているところはあります。すみません。</p>
山田市長	<p>理解が得られていないところの原因を探るということは何かやっていますか？例えば、「あなたは2学期制のどこが納得できないですか？」とか、「あなたは2学期制のどこに不安を感じますか？」ということは何か調査はしているのですか？ そういう聞き方で。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>いえ、2学期制に特化をして、その中の「どこが」という聞き方とかは、していません。</p>
山田市長	<p>だとしたら、それを聞いたらどうでしょう。相手がどこに不安を持っているのか、相手がどこに疑問を感じているのか、それを知らないまま「理解が深まらない」と言っても、理解なんか深まるわけではないです。不安と疑問の原因を相手から聞き出さない限り、こちらが思っていることを一方的に伝えても、相手が不安に感じていることをカバーしないと理解は絶対深まらないと思います。そういうことは……。</p>
滝教育長	<p>やっています。原因はある程度把握はしています。3年生だと3回評定が出る。2学期制は2回しか評定が出ない。更には私立高等学校への評定が3学期制の学校は12月の評定が行くけれども、2学期制の学校は10月の評定が行く。この2か月間の時間のズレが「うちの子はひょっとしたら2か月でもっと評定が上がるのではないか」という意識を持っていらっしゃる。ですから我々の対策としては、2学期制であろうが3学期制であろうが、中学校1年生から学習の積み重ねできているので、3学期制というのは2学期という輪切りの評価をします。1学期、2学期、全学期です。犬山の場合には、全期の前期—1年間の前期という表記をしているんですが、その辺りがきちっと理解をされれば、保護者の不安もなくなるのですが、その辺りを学校現場がまずきちっとそのことを保護者にお伝えできているかどうか。ですから、今、学校現場は一生懸命保護者の不安を取り除くような取り組みを進めています。教育委員会は教育委員会ですなければいけないことがありますので、それこそ私立の高校の校長先生を呼んで、「犬山の2学期制についてどうか」と。「決して受験には不利ではない」ということと、「犬山の中学校で学んだ子たちは、それぞれの高等学校へ行って、こんなに活躍をしています」というような—もちろんいい所ばかりではないかも知れませんが。そんなことが議論できる場を是非作っていただいて、そこの中には保護者の方や地域の方にもご参加をいただいて、ここで言う「素朴な疑問や不安」を出していただいて、それが払拭できるような機会になればいいかな、ということは今、思っているところであります。</p>
山田市長	<p>わかりました。少し2学期制のこれからの検証方法はさておき、「ここの記述をどうするか」ということなので、今、「受け手目線」ということもまた文言を考え</p>

	<p>るとして、ここでどういう表現がいいか、というのは少し別にして、あと今、田中委員から「丁寧に答えていきます」の後を全部無しにしてしまうのではなくて、「検証していく」という部分を入れたらどうかという一ザクッと云えば。</p>
田中委員	<p>そうですね、可能であればここで何か具体的なものが書けるのであれば、明記した方が市民にとってもわかりやすいでしょうし……。</p>
山田市長	<p>検証……どうなのでしょう、みなさん。</p>
滝教育長	<p>これは、今、2文に分けてありますが、例えば「市民の素朴な疑問や不安に丁寧に答え、継続的に議論を続けて、検証を行っていく」というようなサッとした表現であれば、今のような意味合いも含んでくるのではないですか。文を切ってしまうと余計後段の部分が大きくなるのしかかってくるんですけども、「理解を深めて丁寧に答えていくよ」と。「ただそれだけではなくて、継続的にこれについては議論をしていくんだよ」。で、継続的に議論をした結果、ひょっとしたら先ほど市長がおっしゃったような形で制度そのものについての是非を議論する場面になってくるかも知れません。ただ、教育委員会も学校現場も今、とにかくこの辺りは市民や保護者の方々の素朴な疑問や不安に丁寧に対応できるような取り組みを進めているところでもありますので、その程度のと云いますか、そういった辺りの記述でご理解がいただけるといいのかな、と思いますけれども</p>
山田市長	<p>よろしいですか、そんな感じで。よろしいですか。</p>
出席者	<p>はい。</p>
山田市長	<p>はい。では、そういうふうで進めてください。</p> <p>では、次ですが、「国語」の記述のところ。「国語の授業づくりへの効果を高めるために、前述の観点ごとの段階的なねらいと対応策を具現化します。」、「市内共通の目標を持って実施される研究授業に加えて、全国各地で開催される質の高い授業の情報を共有し……」とあります。最後に「実績のある学校図書館アドバイザーを招聘し、計画の方向性を共有します」こういう感じでどうですか、皆さん。これは赤（字）ですから、教育委員会の中で一応、確認したのかな？ そういうわけではないですか。</p>
滝教育長	<p>この間の定例教で確認した……</p>
山田市長	<p>どうですか。よろしいですか、これで。</p>
出席者	<p>はい。</p>
山田市長	<p>課長、これは施政方針のものはどうやって書いたっけ……？</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>ほぼ同様の……</p>
山田市長	<p>ほぼ同様ですけど、少し違うのは、「国語の授業づくりへの効果を高めるために、前述の観点ごとの段階的なねらいと対応策」は、「前述の観点ごとの段階的なねらい」ーそこの流れが何か気にかかりますが。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>読み上げてよろしいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>また、「読む力」と「書く力」を高める国語教育の充実に向けて、観点ごとの段階的なねらいと対応策を具現化し」となっています。その後、「国語の授業づくりへの効果を高め子どもたちの読解力向上を目指します。</p>
山田市長	<p>これでいいと思います。はい。では、これで進めるということによろしいですか。はい。</p>

	<p>ただ、僕は、「作業」というのは変えて欲しいと言って「計画」に変わりましたが、僕は「作業」というフレーズが引っかかりただけでどちらかというと、「仕事をやっていく」という意味なので、「計画」というのは、計画にすぎないからと言って、何か逆に……</p>
滝教育長	<p>「取り組みの方向性」……</p>
山田市長	<p>「取り組み」ですね。そうですね。「取り組みの方向性を共有します」ですね。それでいいですか、みなさん。はい。では、「取り組み」ということで。</p> <p>次が20ページです。「『考え議論する道徳』の授業を中心に、他者から感じて悟る場面を多く設けることで、人間形成の基盤となる、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度などの道徳性を養います」と。こうくるわけですが、これはよろしいですか。</p> <p>確認済みですか、いいですか。どうですか。よろしいですか。</p>
田中委員	<p>すみません。今回はじめての文言なので……</p>
山田市長	<p>そうですね。</p>
田中委員	<p>「他者から感じて悟る場面」が少しどういうことなのだろうと、私自身はわかりにくかったな、と思っています。少し考えたいな、と思います。</p>
山田市長	<p>これは、僕も少し「他者から」というところが、「人やこと」かな、と思いますけれども。「他者」だけではなく「こと」から感じることもあると思うので、人だけに限定していいのかな、と思います。これを入れた意図というのは僕の意思が反映されていますが、「考え、議論する」というのは、何か「テーブルの上で考えて議論をするだけの道徳」みたいにどうしても聞こえてしまうので。ただ、「考え議論する道徳」というのは、文科省のフレーズー指導要領のフレーズでしょう。だから、そうではなくて、そこから更にもう一歩踏み込むには、やはりバーチャルなところで考えて議論するだけの道徳ではなくて、自らが人やことから感じ取って、自分が悟ることから「道徳力」というのは養われていくので、そのリアリティのある部分というのがないと、道徳というのは絶対できないのではないかなというのが趣旨ですが。</p>
滝教育長	<p>ここの部分は少し気になります。「ある一つの場面における人物の心情に焦点を当てて、その価値を絞って議論をしていく」というのが道徳の授業のあり方なんですけれども、「道徳の授業」という考え方からすると、そういう場面を多く設けることは価値が分散してしまうのではないかな、という気がします。</p> <p>例えば、あるお話でもA君のここの心情に焦点を当てると、この価値観に迫ることができる。逆にB君のこの心情に迫るとこちらの価値観。だから、どこの何に焦点を当てるかによって、授業が変わってくるんですけれども、その辺りがボヤッとしたまま資料提示をして議論をすると、何が道徳的だったのかわからないまま1時間の授業が終わってしまうことが多いですけれども、やはり一番大事なものは、一つのこの場面のこの子の心情に焦点を当てるといように授業を進めて行かないと。だから、この表現というのは、道徳の授業からすると、あまり適切ではないような気がしないですか？ 神谷先生。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>おっしゃる通りで、同じ單元の中で捻じれていくのは好ましくないことですが、この表現としては、「道徳の授業を中心に」ということなので、この授業だけではなくて、教育活動全般の中での道徳教育と書いたつもりです。</p>
滝教育長	<p>「教育活動全般の中での」。でも、これは特別の教科の「道徳の充実」の中の文言だから、学校全体のー教育全体の中の「道徳」ということであれば、今、神谷先</p>

	生がおっしゃったことで理解ができますが、「特別の教科道徳」というのは、週に1時間設定される道徳でありますので、それから考えるとこの記述というのは「どうかな？」という気がします。
山田市長	道徳の授業というのが「何のためにあるのか」というのは、その子の底にある道徳性を養う目的でやられるわけですね。「道徳性を養うために、何をしたらいいのか」という話はどうなんですか？ 考えることなんですか？ 僕は感じることだと思いますが。考えることなくして、感じられないと思いますが、目的が何かということを考えたら「道徳性を養うこと」ですよ。だとすると、感じることを抜きに道徳性が養われることはあるのですか。滝先生がおっしゃったのは、いろんな場面があるから、いろんなことを考えるとごちゃごちゃになってしまうので、これは「多く設ける」というところに引っかかるのではないのでしょうか。
滝教育長	道徳の授業と道徳性を養おうということと切り離して考える時に、子どもたちの道徳性を養うのは、全ての教育活動を通して本来はやるべきことなんです。ただ教科としての道徳一週に1時間ある授業というのは、やはりねらいを絞っていくべきだということを思うものですから、この「特別の教科道徳の充実」という言葉の中に、それが混在していることに対して……。だから教科としての道徳の授業ではこういうことをねらいます。ただし、教育活動全体の中では「こんなことをやっていきます」という書き方ならいいですがーということです。
山田市長	それはよくわかりますが、ただ、だとすると「道徳性を養う」記述というのは他にないですよ。
滝教育長	だから、「道徳性、社会性の向上」ということで一応、「施策11」では最初に大きなところで書いてあって、ここは「特別の教科道徳の充実」という項目ですから。これ全体が一応「道徳性を養う」内容に①から④まで……
山田市長	「道徳の授業」は「道徳」という科目だけのことなんですか？ そもそも「道徳の授業」自体が全体を見てないと道徳にならないのではないですか。道徳は「道徳の授業」のための道徳ではないと思いますが。 今、滝先生がおっしゃった話というのは、「道徳の授業だけではなくて、全般でそれはやっていくことだ」という話ですが、そもそも道徳の授業というのは、全般に向かってあるべき授業ではないのかな、と思いますが。
滝教育長	一般的に道徳というのは資料が決め手です。資料であるお話があって、その時に「A君が、B君がどういう気持ちでいたか」という、その一人の子どもの気持ち、人間の気持ちに焦点を当てていく、そして道徳的価値を把握させ、道徳的な実践力を身に着けさせていこう、というものが元々道徳の時間のねらいなんです。ただ、子どもたちの道徳性というのは、単にその道徳の時間だけでは育てていけないものだから、全ての教育活動を通して育てていかなければいけない。だから、今のこの部分については、「特別の教科道徳の充実」と書いてあるので、今、僕はそう感じましたが、例えば「道徳性の育成」とか、そんなような項目であれば、いろんな場面でどうこうと言ってもあまり違和感はないです。
山田市長	わかりました。 他の委員の皆さん、意見があれば。
高木委員	いいですか。
山田市長	はい。
高木委員	私もピンとがずれたことを……

山田市長	ちよつとすみません。これをずっとこのまま延々にやっていると時間が絶対足りなくなるので、意見は簡潔にお願いします。
高木委員	はい。道徳とは生き方を学ぶものであると思いますので、この項目自身を限定してしまうと滝先生のようになってしまいますので、項目自身の言葉を変えて、私も「あらゆる教育活動を通して生き方を学ぶ」というふうな捉えの文章にした方がいいと思います。
滝教育長	「道徳の充実」ならいいかも知れませんね、まだ。「特別の教科 道徳」というと、今までの領域としての道徳ではなくて、「教科としての道徳」をイメージしてしまうので、「道徳の充実」か「道徳性の育成」だとか、それはまた別としても、「特別の教科」というものを切れば、ここに書かれたことはそんなに違和感はないかな、と。
山田市長	他はどうですか。 はい、田中委員。
田中委員	はい。具体的な文言を提案していった方がいいと思います。市長から「文言のみ」とうかがって、「悟る」というところが少しイメージしにくかったということがありました。それから、他の部分でも「感性」という言葉が出て来ていますし、或いは「感じて悟る」というものは「受け取る」ということであれば「感受性」というようなことで表現できるのかな、と思いました。 また、「他者だけではなくて」というところは、私も非常によくわかります。そうすると「ひと」「もの」「こと」というようなことになるのかな、と思いました。それで「ひと」「もの」「こと」に対する「感性」或いは「感受性を磨き育てることに」……「場面」という表現を使うかどうかというところで「一育てていくことに」例えば「重点を置き」とか「中心として」とかそういう表現であればいいのかな、というふうに思いました。以上です。
山田市長	はい。他によろしいですか。
紀藤委員	よろしいですか。
山田市長	はい、紀藤委員。
紀藤委員	僕はここの①は、今度「道徳科」ができるので、ここに特設されていると思うので、道徳の授業だけに絞っていけばいいのではないかと思います。そうすると教育長さんがおっしゃったように「今日は、これについて」ということで、そこに価値と価値のぶつかり合いとか、そういうことがあるので。例えば「今日は家族愛について考えてみようね」と言ってやれば、いいことであって……。今まで道徳そのものは全ての教育活動の中で行うというのは当たり前のもので、今回はそれが更に「道徳の授業を充実させよう」ということで「道徳科」が特設されてきます。だからここに絞って、書き方一言だけはあとはもっと絞っていけばいいのかな、と思っていますけれども。だから道徳全般をとらえるのではなくて、「道徳の授業」ということだけでいかがでしょうか。
山田市長	はい。他によろしいですか。
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい、千葉委員
千葉委員	はい。やはり「目標」の「感性を育みます」の中の一策、一策ですので、これは「道徳教育に限って」、次は「命に限って」、「自然に対して」、「公民的……」というとらえ方で私はいいと思います。
山田市長	はい。他によろしいですか。

	<p>はい。皆さんの意見はだいたい概ねわかりました。これも見解が相違するかも知れませんが、私の見解だけ述べさせていただきます。「道徳」で僕が一番ここで引っかけたのは、「考え議論する道徳」ということです。「考え議論する道徳」というのは、非常に表面的なものを感じて、道徳というのは「これが道徳だ」ということを定義づけることが非常に難しいテーマで、僕が思っていることが正しいと決して思いません。ただ、本当の道徳心であったり、そういうものを養っていくのは、僕は「悟る」ことがないと、所謂「人格の完成」だとかにも繋がっていく部分だと思いますが、それは自分が「感じて悟る」ことがないと、絶対できていけない部分だと思うので、それが道徳という教科であろうが、教科でなかろうが、僕にとってはどうでもいいです。だから絶対「道徳」というものを作るためには「感じて悟る」ことを否定する理由がわかりません。ですから、僕は入れるべきだと。「感じて悟る」ということが一番肝だと思えます。道徳の授業であろうが、そうでない全般的な話であろうが。ただ、それは私の意見として申し上げますので、私はそういう意見ですが、皆さんの意見としては、「授業としてとらえていくべきだ」ということですから、その点について削除しても仕方がないと思えますので、削除してください。</p>
滝教育長	<p>今、市長がおっしゃったことは、19ページのこの3行の後に触れていって、20ページの①に関しては「教科の道徳」について触れるというスタイルでいってはいけませんか。つまり「道徳性・社会性の向上」という大きなところでの道徳性ということで、今の「感じて悟る場面を…」どうこうといったものを僕はここへ入れても構わないと思えます。そして先ほど来、ここで話をしている一紀藤先生もおっしゃったように、ここはやはり「教科としての道徳」で絞って記述をするべきではないか、ということでしたので、これについては「教科の道徳」のことについて触れる。今、市長がおっしゃったことは、こちらの方に含めると。</p>
山田市長	<p>そういう意見もいただきましたが、どうですか。</p>
奥村委員	<p>はい。</p>
山田市長	<p>はい、奥村委員。</p>
奥村委員	<p>「教科としての道徳」というと、評価を付けなければいけないので、「感じて悟る」という部分になると、お互いではなかなか評価しづらいところがある一評価として。ですから「考えて議論する」というところの「議論」が出たか、出てないか。そういった生徒の言葉の発信、その結果に対しての評価が多分出せるのかな、と思うので、各自一大人でも子どもでも思うことと、それをどう捉えるかというのは千差万別違うので、それをまた評価するというのもなかなか難しいところかな、と思えますので、やはり道徳の教科という部分では少し難しい表現なのかな、と思えます。ですから先ほど教育長が言われた施策11の方なら、そういった部分では大きくとらえることができるかな、と思えます。</p>
山田市長	<p>はい。わかりました。よろしいですか。 はい。</p>
紀藤委員	<p>今の道徳の授業は、「一つのことに対してどう思う？」という、色々な考えに分かれます。それを例えば3つに分けて、話し合っているうちに今度、自分の価値が変わってくる。そうすると自分の例えば名前札を「やっぱり僕はこっちに行こう」、「こういうふうにしよう」というふうに変っていくことが非常に大事なことでとされているので、心の動きと言いますか、それは当然、今の道徳の授業の中で大切にされているので、「全般的なあらゆる教育活動を通じて」というのは、やは</p>

	り教育長がおっしゃったように最初の3行、4行のところに入ってくるのかな、と思います。そこをもう一回見直して、大きくとらえていって、この道德の授業にできたら絞っていただくと、現場も教科化されている―「我々もここに向かっていけばいい」という目印になっていいのかな、と思いますけれども。
山田市長	はい。
教育長	ここら辺りを「どういうふうに表示するか」というのは、少し事務局にお任せをいただくと、またそれが決定ではなくて、お示しをしたいと思いますので。
山田市長	だいたい着地点が見えて来れば、あとは事務局に調整してもらえばいいと思うので、完璧にここで何もかも一致させなくてもいいと思いますが、冒頭の一施策11の下の文のところをそういう趣旨を含めるということではよろしいですか？
出席者	はい。
山田市長	<p>はい。では、それをお願いしたいと思いますが、ただもう一回私の意見として申し上げておきますが、「考え議論する道德」は、絶対道德性は養えません。これは僕の考えです。「感じて悟る」こと以外に道德は養われないと僕はそう思っています。本当の道德は。逆に言うと「教科の道德」であってもそこで何かを感じて何かを悟ることを否定することはないと思います。その道德の教科の中にも感じたり悟ったりすることはあると思います。では「考えて議論する」ところを評価したり、「感じて悟る」部分を評価すると、どちらにしても道德を評価するというのは非常に難しい話なので、否定するフレーズではないと僕は思いますが―それは僕の意見として。それはここからは抜きましたので、僕の意見を表明することだけはお許してください。</p> <p>はい。では、青字のところは削るということで、これはいいですね、共通認識で。―青字は後でしたね。</p> <p>③「自然の活用」ですが、「郷土の資源である豊かな自然を、大切に守り育て後世に継承していくことで、まちへの誇りと愛着を持ち続けることができます。持続可能な発展のための教育(E S D)を中心に据えて、子どもたちが生物の多様性の重要性や自分たちとの関わりなどを学習する中で、環境意識を向上させ、持続可能な社会の担い手としての成長を促します。」これはよろしいですか。少し僕は自然の活用というのは、犬山の特徴なので入れた方がいいのではないかとということで、踏まえましたがどうですか。</p>
滝教育長	特に問題ないですね。
出席者	はい。
山田市長	<p>はい。では、よろしいですか。これは入れるということで。はい。</p> <p>では、これは入れるということでお願いします。</p> <p>④「公民的資質の育成」ということで、「自治の精神をはぐくみ、自らの課題を見つけ、自ら解決しようとする態度を育てるとともに、公共性に関する意識の高揚を図ります。主権者教育を進める上において、単に政治の仕組みについて必要な知識を習得するにとどまらず、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身につけます。そのために、犬山選挙管理委員会と協力し、選挙に慣れ親しむ活動に取り組みます。・選挙出前トーク ・生徒会、児童会選挙への選挙物品の貸与や立ち会い」。</p> <p>これ、選挙管理委員会は、犬山選挙管理委員会？ 犬山市ではないですか？</p>
事務局	市です。

(武藤学校教育課長)	
山田市長	市ですよ。それは直しておいてください。 あと皆さんの方から、この部分について何かご意見ありますか。
滝教育長	特にはないです。
千葉委員	いいです。
紀藤委員	最後の中点だけ非常に具体的になってきていますが。
山田市長	ここでいきなり具体例が出るというのも何か…………。
滝教育長	この中点の2つですか。
紀藤委員	はい。
滝教育長	ここはカットでも…………。
千葉委員	「一取り組みます」だけでもいいと思いますけれども。
紀藤委員	実際にはこういう活動を、という…………。
山田市長	具体策は他に書いてないので、方向性だけ示せばいいのではないのでしょうか。
出席者	はい。
奥村委員	すみません。参考までに「選挙出前トーク」とは何でしょう？
山田市長	選挙管理委員会さんが、「選挙とはなんぞや」ということを学校に行って、説明をするというか…………。そういうことですよ？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	模擬選挙的なことも…………
山田市長	模擬選挙なんかもやって。
奥村委員	はい。ありがとうございました。 では、その上の行のままの…………。
山田市長	そういうことです。
奥村委員	はい。
山田市長：	よろしいですか。では、このような表現で。それで具体的なもの—中点のものは抜くということをお願いしたいと思います。 次に21ページですが、「栄養職員配置」というところで、「市費の栄養職員を全校に配置し、各学校の調理業務を適切に運営します」というのが赤字で入っていますが、これはよろしいですか、この形で。
滝教育長	これは適切な表現ではないですよ？「市費の栄養職員を全校に配置し」というのは、県費で配置されていないところに市費で配置するということなので。これだと14校全部に市費の栄養職員が配置をしているということに。
山田市長	では、これは少し表現を直してください。確かに誤解を招きかねないです。 あとはよろしいですか。 食育の考え方というのは、ここで述べられていませんが一前にも少し言ったかも知れませんが。記述がないわけではありませんが。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	③として起こさずに、「栄養職員の配置」のところの後段に付けさせていただきます。
山田市長	②のところ？
紀藤委員	②の最後のところです。
山田市長	「食に関する指導を工夫して望ましい食習慣の形成を図ります」というところで言っているということですか。
滝教育長	そうすると②の項目は「栄養職員の配置」ということではなくて、「食育の推進」ということになりますね。

事務局 (神谷主幹兼指導室長)	「配置」を「食育」ということでまとめましたけれども、取り出して。
山田市長	「食育の推進」と入れておいたらどうですか？ やはり食育ということは言われるので、「栄養職員の配置」とは少し……。そこが少し引っかかるところです。調理だとか栄養職員の記述のカテゴリーしかないので、「食育の考え方」というのがないですねー書いてはありますが、そこの中に含まれているので、少し違和感があります。 どうですか「食育」の部分だけ取り出して、③の……
滝教育長	②の中の項目の「職員」に関する部分を削って、新たに③で「食育の推進」という項目を起こしてそこに入れる、それでいいんじゃないですか。
山田市長	どうですか、皆さん、そのような感じでよろしいですか。
出席者	はい。
山田市長	それでは、項目を起こすということをお願いします。 次が25ページ「青少年問題への対応」ということで、「青少年の抱える問題がより多様化しているため、先進事例を研究しながら相談しやすい環境づくりに努め」、そのあと続いて、「・・・青少年健全育成市民会議等の各団体や保護司、民生員児童委員とも連携し、地域ぐるみの対応を進めていきます。」ということですが、よろしいですか、皆さん。ここの記述は。
滝教育長	これは民生委員さん、児童委員さんというのは、民生主任児童委員ということですか。
高木委員	少しわからないですね。はっきりした意味が。
千葉委員	民生委員と民生児童委員の主任児童委員なんです。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	民生委員の主任児童委員という方がおられます。
山田市長	主任児童委員……。
千葉委員	民生・児童委員の中の主任児童委員。だから主任児童委員と謳ってしまうのか……
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	別です。
山田市長	それは正しい表記にしてください。 あとはいいですか。この部分は。
田中委員	いいですか。
山田市長	はい、田中委員。
田中委員	24、25ページの「施策3」の「公民館」のところと、「施策5」の「中学校部活動」のところで、前からずっとフォントがここだけゴシックではないな、というのが気になっていたの、どこかで直しておく……。
滝教育長	「公民館講座の発展・充実」というところ……
田中委員	いずれ修正されるかな、と思って
滝教育長	これをゴシックにー他のところと合わせてという……
山田市長	はい。それはちょっと変えてください。 赤字以外のことはまた後で皆さんに総括して伺いますので。
滝教育長	これは施策5も同じですね。「中学校部活動」も……これもゴシックに。
山田市長	書体はまた最終的に確認してください。全体を。 ここはいいですか。25ページの「青少年問題」のところは。

出席者	はい。
山田市長	では、28ページですが、これはもう別に異論はないと思いますが、マラソンのところは、「平成29年度までの……」。もともと「今年度」となっていたので、その年度を明確にしました。よろしいですね。
出席者	はい。
山田市長	それで29ページの最後のところですが、「スポーツコミッションの成果をみながら、将来的には文化芸術分野の活動との連携を目指した組織作りを検討していきます」と。スポーツコミッションはスポーツコミッションという名称なんですが、ゆくゆくは文化芸術分野も推進していった方がいいのではないかと、こういうことですが、よろしいですか。
出席者	はい。
山田市長	いいですか。はい。では、これはそのように進めてください。 あと35ページ、「情報の共有・発信」ですが、「施策の具現化にあたり、多くの市民の理解と協力を得て、市民協働による効果的な教育行政を推進します。犬山の教育施策である「学びのまちづくり」を作成し、教育委員会としての取り組みを広報やホームページなどを通じて受け手目線でより分かりやすく市民へ発信するとともに、関係機関や市民、地域との連携を強化し、教育に関する様々な情報の共有を図ります。また、市民からの意見を幅広く聴取、集約し、教育行政を進めます。」ということですが、「受け手目線」というのは、さきほど紀藤委員からご指摘がありました。ここは「受け手目線」で「市民に発信する」というふうに「市民に」というものにかかっているの、誰の目線というの、市民」というふうに読めるかとは思いますが。 ここはどうですか、みなさん。表現として何か意見があれば。よろしいですか。はい。では、これはこのような形で進めさせていただきます。 続いて、青字にいくとまた時間がかかるかも知れませんが、すみません。赤字と青字以外のところで、皆さんの方から「ここは少しこうした方がいいのではないか」とかいう点がもしあれば、全般の中でご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。
紀藤委員	質問でもよろしいですか。
山田市長	はい。
紀藤委員	前は最終の巻末のところに、2学期制のものが出ていましたが、今回ただただ外れているだけなのか、もう無くしてしまうのか。無くすなら先ほどの「巻末の資料参照」を削除しないといけないな、と。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	入れるつもりです。
紀藤委員	入りますか。はい。ありがとうございます。
山田市長	入れるということですね？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。
山田市長	あとはよろしいですか。
奥村委員	いいですか。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	「30年作成」なので、これは改訂版なのか、毎年作成なのか……。すみません。僕が何かおかしいことを言っていますか。

山田市長	中には書いて……
滝教育長	27年度に作成して……
奥村委員	「30年度から34年度までの5年を」というふうなので、となるとこれは改訂版ではない。
滝教育長	「本計画を改定するもの」ですから、27年度に作ったものを今回改定しますという考え方だと思うんです。
奥村委員	そうすると、改定してから5年間になるんですか？ ちょっとその辺りの計画の期間というのが……。
山田市長	27年度の当初の計画期間というのはどうなっていますか？
奥村委員	それがどんどんずるずる延びて行くように思えてしまうので。
滝教育長	27年に策定した時は、「概ね平成30年度頃まで」ということで、はっきり「何年」とは明記はしていなかったと思います。
山田市長	そもそも「教育振興基本計画」というものは、27年の前はどうか？ なかったですか？
滝教育長	27年に策定したのが初めてです。
山田市長	なるほど。
奥村委員	<p>すみません。私がなぜそう感じたのかというと、毎年、この中身の議論を同じようなところを書いて消して、書いて消してということをされていて、何がどうなのか、一般市民からしてみれば「よくわからない」ところです。確かに進化していくとか、新しく変えていくということは非常に一中身とかあるかも知れませんが、正直なところちょっとした文言が一つ変わっても、何も相談まではどうかな、という部分があります。非常に細かく緻密に考えなければいけないというのは、確かにあるんですが一ということが1点。</p> <p>それからもう一つ、これは犬山市と犬山市教育委員会というふうで、策定をされておりますが、犬山市としての意見というのは市長だけなのか、教育委員会としては教育委員会の定例会の時に話し合っ、「ここをですね」ということが出て来て、この場に出てきていると思いますが、犬山市として一他部署では理解ができないので、なかなかわからないですというふうでは、保護者から見たら「さっぱり」。他の人でも犬山市の「市側としてどういう見解なのか」というところが一市長が言っている「どうのこうの」というとかではなくて、犬山市としての見解としてちゃんと見られているのかどうかというところが、僕としては一つ「どうなのか」というものが素朴な疑問でして一言っていることがおかしいのかどうかわかりませんが。現状を見ていると、教育委員会と市長だけの策定というふうにしかならないようになくて、「犬山市として」という部分では、他部署ではこれを見た判断としてどういうふうに使われているのかな、と。それが多分……</p>
山田市長	簡潔にお願いします。
奥村委員	すみません。ということです。
山田市長	はい。あとはいいですか。
奥村委員	はい。大丈夫です。
山田市長	計画期間はわかりやすく書いてください。ここに書いてありますが一「27年に策定して、今回改定」ということが。もしもう少しわかりやすく書けるものがあるなら。どうなのでしょう。

奥村委員	通常色々書くのは、一番上のここに「作成」、それで平成27年度に作成したものを「何年度改定」、「何年度改定」というような一本でも改訂版というのは、そういうふうには……。
滝教育長	これは5年間の計画ですね？ だから今後5年間でこれに触っていくことはないですね？ だとするならば、これは「第2次犬山市教育振興基本計画」として、第1次は27年に出したもので、「これは第2次のもですよ」という扱いではいかがですか。そして「第2次については平成30年から34年までの5年間ですよ」ということがここでわかればいいですね？
奥村委員	はい。
紀藤委員	教育委員会制度が大きく変わって、大綱が出来、それに合わせての見直しだと僕は捉えていたんですけれども。だから普通なら5年なら5年間ずっと変わらずに一細かいところの変化はあっても、大きく変えずにいくんですけども、今回は、やはり大綱ができて、それに基づいて振興(基本)計画を作るというのが一番ですので、その上には犬山市の総合計画がありますので、それに合わせていくという形だととらえていました。
山田市長	ここに書いてあるように、「大綱の策定をふまえて」ということではないですか。今、紀藤委員がおっしゃったように。 その記述は……「2次」と書くのですか？
滝教育長	「改訂版」と書いてありますので、要はそういうことですね？ 見直しをしたわけですから。今後5年間ですから、前のものは27年から27、28、29、30までの第1次の計画であって一総合計画とは違いますが、第2次というとらえかたをすればいいのでは。改訂版だと何番目の改定かわからなくなってしまうので。これでやると5年先、「では今度はどうするの」と再改定版になってしまうので、だから第1次、第2次、第3次でいけば……
山田市長	27年のものは30年ぐらいまでを計画期間にしていましたよね？ 「頃」なんですよ？
事務局 (武藤学校教育課長)	はい。明確には書いてなかったと思います。
山田市長	書いてない？
事務局 (武藤学校教育課長)	はい。あまりはつきりとは。
高木委員	「3、4年ごとに」くらいの言葉で書いてあったと思います。
山田市長	「3、4年ごとに」？
事務局 (武藤学校教育課長)	表現としてそんなにはつきりとした「30年度まで」とはなっていなかったと思います。
高木委員	「3、4年ごとに見直しをし」という言葉があったような気がします。
山田市長	わかりました。少し、どう書いていいのか今はわかりませんが、事務方で整理してやってください。 それからご質問だったかと思いますが、ここで議論をしているのは、市役所の一ここにいる企画以外の部局以外のところは、はつきり言って何も知らないと思います。知りませんか？ 情報共有はしていませんよね。ですから、知らないと思います。それで僕がここで意見を言っているのは、市長として意見を言っているの、僕の主観的な思いもかなりというか、そういう思いでやっています。ただ、それをどういう意図でおっしゃられたのか、僕はわかりませんが、犬山市とし

	ての市役所の中のコンセンサスとしておっしゃったのか、市民という意味でのコンセンサスがとれているのか、ということでおっしゃったのか、そこがわからないので……。ご質問に関しては他の部局は知らないです。
奥村委員	すみません。「コンセンサス」という意味がわからないので……。
山田市長	「合意」です。要するに他の部局も含めて、犬山市役所として合意形成がとれた上で、ここの議論というか、こういうやりとりがされているのか、ということ言えば……
奥村委員	そうです。
山田市長	そういうコンセンサスはありません。
奥村委員	はい。
山田市長	ですが、私が全責任者なので、コンセンサスがあるもないも、それは私の責任です。市長としての。
奥村委員	はい。ここに一応「犬山市」と「犬山市教育委員会」となっているので、その辺りのやり方というか、そういうものがどういうふうなのか僕は知りたかったです。
山田市長	いいですか。
奥村委員	いや、それでいいのかな、というのが一つ……
山田市長	良くないということですか？ 要するにもう少し市役所の中の他の部局とちゃんとこの方向性について情報共有して、他の部や課もちゃんと認識した上で、ここで認めていくべきだというご意見ですか？
奥村委員	その辺はどうか、というような僕の一言、意見です。
山田市長	重要なことだと思います。というのは、よその課で何をやっているのかわからないとーコンセンサスがあるかどうかは別として、「よその課で何をやっているのかわからない」ということはやはり良くないです。少なくとも管理職レベルぐらいは、どんな議論がされて、どういう計画がどういうふうにとまとまっているのか、というのは把握しておいた方がいいと思いますね。リンクするものがあるので。それは教育振興基本計画だけではなくて、他のすべての計画もしっかり言ってその部で作って、それを他の部の部長が知っているということはありません。障害者の計画だとか介護の計画、環境の計画、みんなその部で作って、結果論として目に触れることはあるけれども……
事務局 (江口経営部長)	策定の段階で、例えば総合計画みたいにすべての部署に亘るようなものについては、調整をしながらやっていきますけれども、例えば今回のこのケースでいうと、教育に割と特化した計画の部分ですので、他部署に言うということはありませんし、今、言われたように「では、障害の計画は？」というと同じような形です。
山田市長	そうですね。他の計画も基本計画というような類のものは、なかなか市役所の中の情報共有がありません。
事務局 (江口経営部長)	策定後に配布してーというような形です。
山田市長	結果として目に触れることはあるけれども、策定する過程において把握することはありません。 僕は今のご指摘は重要だと思います。これはやはり共有しておいた方がいいですね。部課長がどこのレベルまで認識するかとか、或いは何かそこで意見が出るかということは別として、少なくとも情報共有はした方がいいですね。ただし、こ

	<p>ここに「犬山市」と入るということに関しては、例えば私が市長としてここで発言したり、ここでやりとりをしているので、それはこのことを把握していない部があったとしても一例え健康福祉部や経済環境部だとか、このことを把握していない人がいたとしても市役所として、犬山市として私の責任でやっていますから、そこが「私は知らないから、こんなものは関係ない」ということはないと思いますー市役所として。ただ、今、ご指摘のあったように情報共有することは大事なので、今後は少しその点についてはやりましょう。</p>
事務局 (江口経営部長)	はい。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>今の件についていいですか。これは、本来「教育振興基本計画」は地方自治体が定めるものとなっていますので、地方自治体の長は市長でありますので、長の責任でこれは定めるべきものだと思いますが、内容が教育に関わる問題です。ですから、教育に関わる内容は、市長と教育委員会の事務局とで進めてきています。事務局というのは、非常に曖昧な立場で、ある時は教育委員会の事務的な仕事もやらなければいけない。ある場面では市役所が関わった教育のこともやらなければいけない。ですから、この案を作成する段階では事務局の職員と市長とのやりとりがされています。これがある意味では犬山市の組織としての検討場面かな、と。教育委員会で議論をしていただく時には、これは犬山市の教育委員会としての議論です。ですから、これが連名で出ても市役所としての部長・課長として教育委員会の事務局の中では検討をされていますので、私はあまり違和感がないかな、というふうに正直、感じてはいますけれども。</p>
奥村委員	はい。ありがとうございます。すみません。
山田市長	<p>はい。他によろしいですか。いいですか、青字と赤字以外のところで、全般に亘って何かご意見やご質問は。よろしいですか。</p> <p>はい。では、みなさんの方からは特に無いようですので、僕の方から1点。これは僕は前に言いましたが、33ページの「石上祭総合調査」に関してですが、中村課長。</p>
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	はい。
山田市長	これは29年度から31年度までなので3か年ですよね。だから「32年度から34年度までは鶴飼の学術的な位置づけを明確にするための調査をしたらどうだ」というふうに思いましたが。
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	そういうご指摘もあって、腹積もりとしては持っておりますが、まだ実施計画等の中に落とし込みができていなかったものですから、今回の記載はしない方がいいのかな、と思って書いてはおりませんが、やっていく方向性としては持っています。
山田市長	逆に言うと、ここに落とし込まれたことを踏まえて実施計画に入れると、それはどちらでもあれですが。というのは、大事なので、やっておいた方がいいと思うんです。
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	はい。

山田市長	そんなにお金はかからないでしょう？
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	それすらまだ。
山田市長	わかりませんか？
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	わからないので、そういうところもあったので……。今回、「石上祭の総合調査」という項目で起きていたものですから、ここまでの記載にしておいて、その後のことを含めていくとここのタイトルも変わってくるのかな、という思いもありましたので、今回は外しました。
山田市長	ただ逆に34年度までの5か年の目標の中に「ない」ということは、記載の仕方だと思いますが、「石上祭」の次の段階で「鶉飼の学術的な位置づけを明確にするための調査について、実施を検討していく」とか、表現の仕方はあると思いますが、何もないというのが少し「どうかな」と思っています。
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	わかりました。
山田市長	「絶対やります」とかーもし不安要素があるならば、表現を考えてもらって。どうなんでしょうか、みなさん。実は「石上祭（総合調査）」は3か年－31年で終わるので、計画期間の中で絶対やれるかどうかは別として、「石上祭」の次に「鶉飼の学術的な位置づけを明確にしていってはどうか」ということを思いますが。それはどういう意図かという、この手のものというのは、単に昔からやっているというだけではいけないわけです、文化財としては。文化財の位置づけを高めていくということは色々な展開がその後に考えられるわけです。ね、高木委員。
高木委員	ええ。
山田市長	犬山祭でも学術調査をやって、それに基づいて国指定になってユネスコになったという流れがあるので、昔からやっているというだけでは認められません。そうすると鶉飼の今後の展開を考えた時に、色々な可能性を私としても考えていきたいので、それには学術的なことが全く調査されてないです。石上祭もそのために調査をはじめていますが、31年度で終わるので、その次は鶉飼に着手したらどうだという話ですけれども。どうなのでしょう、その方向性としては。
奥村委員	31年度で終わって、石上祭はどうなるのですか？
山田市長	「どうなる」というのは、学術的な調査に基づいて、例えば県の指定の文化財になるとか、グレードが上がるかどうか、というものが一調査を踏まえての話になります。そこまでは今、言及できませんが、「何のためにやっているか」というと、そういうことです。
奥村委員	何かある程度の成果が出るまでは続けるのか、ただ年数で区切って見えるのかというところ……
山田市長	要するに「祭りの位置づけを格上げしたい」ということです。格上げすることによって、色々な可能性が広がってくるので、それが保存継承に繋がっていくことを一番のねらいとしているわけですけれども。格付けが上がって、皆さんの関わる位置づけも変わってくれば、保存継承にもつながるといことが意図としてあります。
高木委員	まず「総合調査書」みたいなものを取りあえず作るということだと思います。31年までに。

山田市長	そういうことです。
高木委員	それをもとにまた、市長が今言われたようなことを……。そして同様に鶴飼についてもやっていきたいというご意向なんですよ？
山田市長	そういうことです。
高木委員	「予算的なこと」というわけではなくて……
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	そういった裏付けもあったので。
奥村委員	そういうこともあったのですね。
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	実施計画もまだという一内部的な作業も進めていって、記載した方が正しいのかな、と思っていましたが、今、市長からそういうような……
高木委員	私は個人的には、そういう方向であるなら掲載しても全然問題ないのかな、とは思いますが。
山田市長	方向性だけ示したらどうですか。
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	はい、記載の仕方を考えます。
滝教育長	計画だから。
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	はい。
山田市長	この計画期間の中で、「何年から何年までのところでやる」とかそういうことではなくて、方向性だけ少し示してみてもどうかな、と思います。
事務局 (中村歴史まちづくり課長)	はい。
山田市長	いいですか。この「学術的な位置づけをするために調査事業の実施について検討していく」ぐらいで。はい。
滝教育長	中身に関わることではなくて、形式的な部分ですが、例えば33ページの「施策7 石上祭…」と(あって)①番「総合調査の実施」と①、①、①と「①」しかないものは番号をふらない方がいいのか。今まででもずっと所々見ると、一つしかないのに「①」と書いてあるところがあります。例えば24ページの「施策2 犬山市子ども大学開催事業」、「① 犬山市子ども大学」。②がないのに①が付いているので、「①」しかないものは、「①」と項目を起こさずに、サッといてもいいのかな、と。
山田市長	あるものとなないものがあるのが混在しているので、統一してください。
奥村委員	28ページの施策13、14、15は、「①」がないですね。
山田市長	そこは少し整理をしてください。 他によろしいですか。全般に亘って。他に。
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい、千葉委員。
千葉委員	最後の35ページのことなんですけれども、先ほど奥村委員が言われたように「市役所内(庁内)」、「学校内」、「保護者(地域)」、「国、県」と、そういうこ

	とが書いてあって、学校であれば保護者に「学びの学校づくり」ということでお渡ししています。いつも市長が言われている「和と礼」とかそういうものを重んじというのは、やはりこの計画の後ろ側にあるものであって、それを皆さんがくみ取れるような説明というか、勉強会を「やりましょう」と先ほど市長が言われましたが、そういうものを是非、私は進めていって、もっと皆さんで共通理解をして、これをいいものにしていきたいな、と。ただ計画だけで終わるのではなく、具体的に「私はこの立場だからこういうふうを受け止めよう」とか、それを「犬山の子どもたちに返そう」とか、そういうふうに見えるような計画であって欲しいです。だから、この35ページに書いてあることをもっと具体的に進めて行ってほしいというのを思いました。
山田市長	はい。わかりました。 それは全庁的に？
千葉委員	そうです。全庁的にもそうですし、さきほど（あった）民生児童委員さんや保護司さん、そういう具体例も出ていますし、あとはてくてくパトロールの学校の登下校の（見守りの）方とか、色々な立場の方が関わってみえますので、やはりこういう計画があるということを一細かいことまでは言わなくてもいいですが、こういう計画のもとに動いているというようなことを、何かの形で一難しい言い方をすると勉強会ですが、そういうことがあってもいいのかな、と。そうするともっと共通理解ができるのではないかな、と思います。やはり作っただけでは……。
山田市長	そうですね。そもそもこの計画はできあがったら、パブリックコメントはやるにしても、一般には発信されるのですか。
事務局 (武藤学校教育課長)	事務局で考えていたのは、市のホームページに掲載するということと、市議会の方へ配布をするという一以前の27年のものについてもそうしたレベルでの周知を行っています。
滝教育長	自治体によっては一犬山は分量が多いですけども、リーフレットやパンフレットみたいにして、作っているところもあります。これを多分、それにすると随分お金がかかってしまうかな、と思います。
山田市長	今、千葉さんがおっしゃったように、何らかの形でもう少し広く情報共有できるといいですね。何らかの形で。
千葉委員	学校の生徒さんというか保護者さんには、「学びの学校づくり」で結構具体的にお渡ししているんですよね？ ここの中から抜粋したような所を。それはまず良しとして、やはりこの市役所内、このような色々な関係団体はあると思いますので。頑張って作ったものですから、やはり……。しかも市長の思いも色々ありますので、それを市長も色々なところで「犬山の子どもたちは和と礼を……」というようにいつもおっしゃっているようなことを発信してもいいのではないかな、とか。この計画の裏にあること、それを皆さん、教育現場は教育現場でまた……と 思いました。
山田市長	大綱に関しては、かなり広く情報共有をしましたね。確か回覧もしましたか？ 回覧はしていない？
事務局 (松田企画広報課長)	広報の記事にはしました。
山田市長	広報にも出しましたね。本当は広報に載せたいくらいですけども、これだけのボリュームになるともう上辺だけの部分しか伝えられないので。今、ここで

	<p>ういうふうに情報共有をするのか、ということはあるのですが、何らかの形で。一部の人がしか知らないのではなくて、少しでもこういうことに関わっている人に情報が共有できるように、少しそこは工夫を考えたいと思いますので。</p> <p>あとは、何かよろしいですか。全般。はい。</p> <p>では、時間もないので、しっかりと進めます。</p> <p>4ページですが、青字のところと……青字の所は少し見解が相違している部分もあるかも知れませんが、調整を図っていきたいと思います。基本的にみなさんは、①の方がいいということで—みなさんの総意ということでもいいですか。例えばこの「めざす子ども像」のところですけど。</p>
紀藤委員	すみません。
山田市長	はい。
紀藤委員	<p>僕は、定例教育委員会では①。で、今度②ももう一度読んで、①も②もそうなんですけれど、最後の「子どもです」というところにどちらも引っかかりがあります。市長さんがおっしゃった「想像力を発揮し、未知の課題に立ち向かう」これもいいと思います。ただ、「子どもです」と付けて書いてありますが、「一身に着けます」とか、そういう終わり方ではないかな、と。そうしないと文面がおかしいな、と。そんなことを思いました。何か目指す子ども像の—「自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども」の説明を最後に行っているような感じで、そうではなくて、子どもたちが「これを身につけます」というような…。「めざす教師像」だと「教師は……積み重ねます」とそんな形でできているので、子どもたちも同じかな、と。この立場が僕自身も今、はっきりわからなかったのも、前回の定例教育委員会ではこのまま通って行きましたけれども。そこを何度も読み直していたら、そんな思いがしてきました。</p>
山田市長	はい。
滝教育長	<p>多分、これはタイトルに「像」という一文字があることによって、こういう表現になってしまったのかな、と。「めざす子ども」といくと、「こういう子どもを目指しま—す」でいいと思いますけれども。「子ども像」というと、それが一つの描かれた姿になるとすると、「こういった子どもです」というような表現になってしまってきているのかな、と思います。</p>
山田市長	主語がこれは「子どもとは」という主語ですから……
紀藤委員	そうなってしまうので……
山田市長	「身につけます」だと主語と語尾が少し合わないかな、という気がします。
紀藤委員	<p>ただ、「めざす教育委員会像」だと、また違ってきますよね。教育委員会の立場として、こういうものを進めますというような捉え方ができて他も全部そういうふうで、「めざす子ども像」だけ少し違うので、もう一回じっくり考えてみたいなというふうに思いました。</p>
山田市長	それは紀藤先生、中身というか……
紀藤委員	表現の仕方です。
山田市長	表現の—主語と語尾の話ですね。
紀藤委員	そうです。
山田市長	<p>そこはまた通りがいいように、何か考えるということで。</p> <p>趣旨についてはどうですか、皆さん。皆さんの意見としては一致ということなんでしょうが。</p>

	これは②は今回、こうして並列して書いてありますが、これは定例教では話し合われましたか？ 話し合あわれていませんか？
滝教育長	話し合っていますね？
千葉委員	ええ。
滝教育長	この②番は、「自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども」ということで、「感性豊か」なことと、「自ら学ぶ力」というのは別の扱いがしてあります。ところが①番は「自ら学ぶ力を身につけた子」というのは、その中に「感性」も含まれていますよね？ ①番を読んでいただくと、「自ら学ぶ力を身につけた子どもとは…感性豊かな子どもです」。だから、「感性」というのは、もう「自ら学ぶ力」の中に含めている。ところが②番の表現でいくと、「自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども」ということで、「感性豊か」というのは「自ら学ぶ子ども」から切り離して考えているということになりますよね？ ですから「自ら学ぶ力」の中に「感性」を含めていくというのであれば、②は極端な話、「自ら学ぶ力を身につけた子ども」というのは、「基礎的な学力…」。「感性豊かな子ども」と言っておきながら、更に「感性豊かな子ども」ということで、②の表現より、やはり①の表現の方がすっきりいくのではないかということです。これはもう定例教で皆さん、そういうご意見でした。
田中委員	タイトルが「自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども」となっているので、むしろ②の方が……
滝教育長	だからこのタイトルもおかしいですよ。
山田市長	これは、また少し意見が違いますが—これは僕の意見ですけれども、「自ら学ぶ力」の中に「感性豊か」を含めるのではなくて、「感性豊かな子ども」の中に「自ら学ぶ力」というのが含まれている。「感性豊か」の方が優位性は高い。「自ら学ぶ力」をここに残したのは、やはり今までの教育の継続性というものを否定しない方がいいだろうということで入れましたが、本当は「感性豊かな人づくり」でよかったのです。もっと言うと「自ら学ぶ力」は、「勉強だけしていればいいのか」という—「勉強だけする子どもがいいのか」という部分。もちろん大事なキーワードですけれども。
滝教育長	「自ら学ぶ力」というのは、「基礎的な学力を身につけ、家族や友達を大事にし、地域を支え、自分の人生を大切するとともに、生涯にわたって自ら学び続けようとする資質や能力を身につけた子ども」だったのですが、そこに「感性」を含めたわけです。市長の思いで。だから、私がここにかつて居た時も「自ら学ぶ力」というのは、「資質や能力」。「自ら学ぶ力」とは、「基礎的な学力—」云々…「—資質や能力」で終わっていました。そこに「感性」が加わったので、私は「自ら学ぶ力」の中に「感性」が含まれるものだというふうに理解をしていましたが、今の市長のお話だと別物という扱いなのでしょうか。
山田市長	すみません。言葉の微妙な「あや」みたいなところに入っていくと、「どういう表現がいいのか」というのがまとまりつかなくなってしまうので、僕もあまりこだわってはいけなくて、譲るとことは譲りますけれども、「自ら学ぶ力」と「感性」というキーワードは、何のために学んで、どういう力がこれから子どもたちに求められていくのかな、ということを考えたときに、やはり想像力を発揮していく力というのはこれからの時代に必要になってくるのではないかと、やはり課題に逃げるのではなくて立ち向かう—「立ち向かう」という表現もいいのかどうかありますが—向き合う姿勢を持たないと成長できないと思う

	<p>ので、学び続けることは、どうしても机の上で学び続けるものをイメージしてしまう—先ほどの「道徳」ではありませんが。ですから、リアリティのあるところに本当は子どもたちの必要とする力があるのではないかと。というところで「想像力」とか「課題に立ち向かう」というフレーズが要るのではないかと思います。僕が引っかかるのは、「自ら学ぶ」ということを否定するつもりはありませんが、どうも「机の上で勉強すること」のイメージに聞こえてしまう。それが今の時代背景—将来を見据えた時に「本当にそれが子どもたちが目指すべきイメージなのかな」と少し引っかかる場所があります。</p>
滝教育長	<p>私はむしろ逆に「生涯にわたって自ら学び続ける」というのは、子ども大学で家から出て何かをやったりどうこうという、ああいう活動を思い描きますが。机上の学習ではなくて。だから「基礎的な学力を身につける」といった部分はいわゆる机の上で学習することをイメージしてしまっていますが、「生涯にわたって自ら学び続けようとする」といった部分になると、それに限らず今までに学習したことがベースになって、いろいろ学習に広がりや深まりが持たせられますよ、といったようなことをイメージしてきましたが。</p>
高木委員	<p>よろしいですか。私も教育長と基本的には同じで、「自ら学ぶ」ということ自身が「机で学ぶ」ということでは決してないと大前提として思っています。ですから「生きる力」と言いますか「生き方」と言いますか、そういうものを自分自身で常にどんな場でも学び続けようとする、そういう子ども—そういうカーというイメージでいます。</p>
紀藤委員	<p>あの。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
紀藤委員	<p>大綱を見直すと、「遊び」も入れましたので。「遊びの中から学ぶ」というのは、幼児教育の根本であり、大人でもそうですから「学ぶ」というのが「机—デスクワークだけではない」という、そんなイメージでとらえていただければ一番いいけれども、先ほどの「市民の目線」ではありませんが、「学ぶ」というと机に向かって、鉛筆を持ってやるようなことが「学ぶ」ということならば、また考えていかないといけないけれども、それではないというふうに我々にとらえています。私はとらえていますと言った方がいいかも知れません。</p>
山田市長	<p>はい。①を軸にといいですか。</p>
田中委員	<p>あえていいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
田中委員	<p>私自身は保留というか、元々「子ども像」、「家庭像」というのはいらないのではないかという立場でずっと発言してきましたので、ただ①、②の2択ということではないと思いますが、私は②の市長案が趣旨に沿った内容なのではないかと思えます。しかしあえて個人的な意見としては、③として、「自ら学ぶ」のであれば「自ら考えてください」と、この一文だけでいいのではないかと。要は「何も書かない」ということが私自身の考えですけれども、ここで主として記載するのであれば②でも構わないということです。以上です。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。 着地をしていかなければいけないので、「無い方がいい」というのは、また別として、①の方がいいのか、②の方がいいのかというと、今の意見があった中でいえば「①の方が趣旨としてはいいだろう」というようなご意見が多かったように思うので、そういう形で進めるということで、よろしいですか。</p>

滝教育長	<p>学校現場も多分、この言葉で意思統一がずっと図られてきたように思います。例えばこれで②を出すと「あれ？ 『自ら学ぶ力』の定義が変わったのか」と多分学校現場が混乱するのではないかという気がします。</p>
山田市長	<p>教育長、待ってください。今、①で落ち着けようとしているのに、それを言われると僕は、先ほどの2学期制の問題と同じで、それが学校現場の一番いけない所だと思います。「ここに含まれているんだ」、「みんなこう理解しているんだ」。でも、結局、これでも時代背景が変わってきているので、未来に向かってどういう学力感であったり、どういう能力が求められてくるのか、というのは、「含まれているからやっているんだ」、「やっているんだ」というふうになってしまいます。「いいことをやっている」－全部それが含まれて、この中でやっています－ではなくて、明確に記述することで、「ここをやっていくんだ」と。国語教育と同じですけれども、書かないことで逃げ道にしてもいけないと思います。そんなふうにはやっていないと思っていますが、でも2学期制について理解が深まってこなかったというのは、僕は現場の努力不足以外の何物でもないと思います。それは「いいことをやってきたんだ」と保護者の意見に向き合わずに……</p>
滝教育長	<p>わかりました。市長、それはまたこれとは別の問題でありまして、「自ら学ぶ力を身につけた子ども」というのは、犬山の学校現場も教育委員会も統一した見解で「こういう子どもたちを育てていこう」ということで十数年進めてきたことです。それが例えば「想像力を発揮し、未知の課題に立ち向かう」という、今までこういう姿を描いて、学校も「こういう子どもたちを育てていこう」、教育委員会も「こういう子どもたちが育つように支援していこう」としてやってきたことがグルッと大きく変わるような気がしました。教育も不易と流行があります。犬山がここで言っている「自ら学ぶ力」というのは、犬山市の教育委員会と学校現場が考えてきた教育の不易の姿だと私は思っています。だからこれが時代によってくるくと大きく変わることはないと思います。ですから、この定義を変えることによって、学校現場が混乱することは間違いがないです。だからこれは教育委員会の悪い癖でもなんでもなくて、やはり同じ姿を描いて学校現場は学校現場としてやることをやってくる。教育委員会は教育委員会としてやれることをやっていくということで来たことが、私は今までやってきたことが少し崩れてくるな、ということをおもわないではないです。</p>
山田市長	<p>僕は①でいいと思って納得しようと思ったんですが……</p>
滝教育長	<p>わかりました。僕がそこに余分なことを言ったから混乱させた……</p>
山田市長	<p>だけど、教育長、やっぱり「俺たちがやっていることは間違いがないんだ」、「『自ら学ぶ力』は絶対、これは間違っていないんだ」という、それを僕は変えると言っているのではなくて、「そういう考え方が危険だ」と言っているんです。「今まで犬山がやってきたことは間違っていないから、それはみんな共通理解です」というのは、はっきり言ってそれは小さな村社会の話なんです。その中だけの。でも、世の中は動いているので－それを変えていくという意味では決してないです。「自ら学ぶ力」というのは僕も大事だと思っていますし、それを変えようという意味ではなくて、でも時代は変わっていつているわけですから、その中で変えていいものと変えてはいけないものというのは、僕もわかっています。でも、変えていけないものが「それが全て」になってしまうと何も変えないということになってしまうので、それが「危険だ」ということです。だから時代の変化をとら</p>

	えて、「この部分は少しバージョンアップしていった方がいいのではないか」というところは絶対あると思うので、
滝教育長	「感性豊かな子ども」が付け加わったのが僕はその部分だと思います。だから、これは「何がなんでも変えないよ」ではなくて、当然、それは毎年見直しをしなければいけないことですし。「感性豊かな子ども」というのは、僕は今年4月に来てびっくりしました。1年間いない間にこれが加わりました。ですが、これは市長の思いということで、私は理解しました。だから全く変えないわけではなくて、その辺りは見直しますが、②番でいくと「想像力を発揮し、未知の課題に立ち向かう」というのは多分、学校現場が聞くと「あれ？」とってしまうと思います。ですが、「生涯にわたって自ら学び続けようとする」というものの中には、この「想像力を発揮する」ということも含まれるだろうし、「未知の課題に立ち向かう」ということもここには含まれるだろうと思います。広い意味で。だから私は①で-②よりは①の方がじっくりといくのかな、と。
山田市長	わかりました。①でいいですけど、書かなければわからないこともあります。「書かないからやらなくていい」となってしまうこともあります。だから書くことによってそこに対しての意識付けをしていくということはやはり重要だと思いますが、それを「この中に含まれている」と言ってしまうのは、「本当にこれからどういうところが大事になってくるのか」ということに向き合わなくなる恐れもあるので、僕は言っているだけですけれど、いいです。それは。僕は①でいいと先ほどから申し上げているので。 では、①を軸に進めて行くということでよろしいですか。はい。 それでは、「めざす教師・保育士像」ということで、これも①、②とありますが、「自ら学び続ける教師・保育士」、「感動力豊かな教師・保育士」と。タイトルの部分ですけれども。①は教育委員の皆さんの共通した意見だと思っているので、②でダメな理由があったら教えてください。僕が納得できたら譲りますので。
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい。
千葉委員	文章の中に「『学び』に感動」とか「感動を子どもに伝えたい」ということを入れているものですから、あえてそこでまた「感動」にしなくても、教師は日々勉強、日々成長ですので、私は①でいいのかな、と。
山田市長	なるほど
奥村委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
奥村委員	先生というのが「感動力豊か」というもので定義をしてしまうと、では23歳、24歳の新任の先生でOKなのか、というわけではないと思います。先生を積み重ねていった上での一主任であったり校長先生であったり子どもたちへのアドバイスがあるので、先生が成長していただきたい。それを支える皆であるという部分では、私は「学び続ける」ということの先生への期待をしたいというのがすごく重いです。もちろん感動できることもたくさんあると思いますが、やはり気持ち的に人間ですので、沈んでしまったりいろんなこともあったりして、非常に苦しい場面もあると思うんです。そういった時にやはり「何を学ぶのか」ということが第一番にあると思うので、私は①の方がいいのかな、と。完成された部分ではなく、まだ……
山田市長	わかりました。他に。

	<p>納得はできませんが、「教師や保育士は、誰のための存在しているのか」、「子どものため」だと思います。例えば学校で言えば、授業をする一子どもに勉強を教えるのが教師の仕事なので、プロの教師というのは、ではどういう人と言うのか、と言ったら、「先生の授業はわかりやすい」、「先生の授業は楽しい」ー今は授業だけではない関係もあるので、だとすると、それが教師の使命ですよ。それが教師の使命だとすると、「どうやったらわかりやすい、楽しい授業ができるのか」というのは、やはり自分自身が学びに対して感動する主体でない限り、「これってこういうロマンがあるんだよ！」ということ自分を感動して伝える側にいないと、機械的に書いてあることをただ伝えるだけではわかりやすく、楽しい授業にはならない。だから、感動していないといけない。ロマンを絶えず追求めるような姿勢でないとダメではないか、というのが僕の思いです。ですから、教師や保育士が使命を果たすために何が一番大事なのか、というのがタイトルに来なければいけないというふうに思いましたので、「学び続ける教師・保育士」というのは、少し違うのかな、と思いましたがけれども、これも①番でいいのではないのでしょうか。私の意見だけ申し上げておきます。納得はできませんが、①の方が皆さんのご意見が強いということですので、①でいいのではないのでしょうか。</p> <p>はい。次、「めざす子ども未来園、学校像」。これも皆さんとしては「自主性を育てる保育・教育、自立する学校」という方がいいという視点だと思いますが、①でよろしいですか。</p>
紀藤委員	信頼されることは当然のことだとは思いますが。
山田市長	<p>そうですね。これはさっきの話ではないですが、書くことによってそこに向かっていくということが大事なので、当然ですが、「本当にそれが当然のごとく信頼されているの？」ということ考えなければいけないと思います。</p> <p>それでは、①でよろしいですか。はい。</p> <p>次は5ページが一番上ですが、「様々な状況」というものと「学びを取り巻く環境の変化ー」、そういうふうになっていますけれども。これはどうですか。皆さんとしては「様々な状況」ということでしょうけれども。</p>
紀藤委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
紀藤委員	<p>「学びを取り巻く環境の変化」というと、「学び」だけになってきます。狭い。でも「様々な状況」というと、例えば「出生率の低下」、それによつての人口の減少によつても学校というのは変わらなければいけないです。それから「家族のあり方」もどんどん核家族になって変わってきています。それから「引きこもり」、大人になつても引きこもっている状況、でも学校教育は本当に中学生から高校生になつていくと「さようなら」。そうすると「高校が」。それから後は「社会が」ということですがけれども、そういう部分もあつて、今、「世の中は様々な」と言つた方が「学びを取り巻く環境」よりも広くとらえられないかな、という。「様々な状況」はどんな状況だと具体的に言うと、幾つかここに掲げてもいいですけども、それだけに限定はできないかな、ということですがけれども。そんな思いで「様々な状況」の方が色々なものを含んで教育というものを考えていかなければいけない。ー財政もあるかも知れませんが。</p>
山田市長	<p>はい。どうですか。「様々な状況、課題」？「課題」は②に係るのですか。「、」があるので。</p> <p>では、「様々な状況」でいいですか。はい。</p>

	では、「めざす家庭像」。(①)「やすらぎとふれあいのある家庭」、(②)「愛情あふれる家庭」。皆さんは①ということだと思いますが。
紀藤委員	よろしいでしょうか。
山田市長	はい。
紀藤委員	「愛情」ということを前面に押し出している、これはよくわかります。定例教育委員会で僕は、愛情がある家庭は「親というのは子どもに対して愛情を持つ」というのは、なぜそれを持つのかと思いつつながら、愛情を注ぐことで子どもの心が安定してくるのです。そこにやすらぎが生まれてくるのではないかと。そして心の安定があれば、落ち着きもあるだろうし、そんな意味で「やすらぎ」という中に「心の安定」や「気持ちの落ち着き」を含んで、「ふれあい」というところは「心の交流」で、これは「家庭」というのはやはり、親と子一更に広げていくと、おじいさん、おばあさんがいるところもあると思います。そういう所の心の交流がない限り、やはり安心して過ごせる場ではないかと。ですから「愛情」というのは「やすらぎ」とか「ふれあい」の原点ではあるけれども、もっと大きくとらえると「やすらぎ」とか「ふれあい」と言った方が、より「家庭」というのはどういう家庭か、というのがわかりやすいかと。「愛情」というと、「子どもにずっと愛情をかけていけばいいんだ」みたいな雰囲気ですけれども、「そうじゃないよ」と。やはり「やすらぎがないといけないよ」ということの方がいい。「ふれあいがあつた方がいいんだよ」ということで、こちらの①の方が広い意味で家庭がとらえられるかな、と思いました。
山田市長	はい。よろしいですか。
紀藤委員	当然、「ふれあい」の中には「敬愛」とか、市長さんがおっしゃっている「和」とか「礼」の、そういう意味合いも全部含めているというふうに考えております。
山田市長	僕の思いとしては、「やすらぎ」とか「ふれあい」というのは、いきなり起きるものではないので、愛情が前提です。「めざす家庭像」だから、では「やすらぐ」ために、「ふれあう」ために、「何をどうしたらいいの？」という話になると、「やはり愛情が通いあってないとダメだよ」というところで「愛情あふれる」というふうにしましたが。これはずっとここで議論してきて、私なりに思いも言っていますが、何か僕は間違っているのかな、ことごとく否定されていくと、僕がおかしいみたいに思えてきてしまって、非常に今へこんでいるんですけども。別にこのことだけをとらえて言っているわけではないですけども。
紀藤委員	「愛情あふれる家庭」というのは、当然のことだと一当然というとおかしいけれども、どなたでも受け入れていると思います。その文章の中に一2行目ですか「家庭で十分な愛情を受けることは、基本的な生活習慣や……」と……。
奥村委員	市長さんが言われているのは、非常によくわかります。ただ、今までさんざん練ってこられた文章の中に人と人とのまさに「感性」の色々な違いで、言葉のニュアンスがあつてのとらえ方の好みというか、その違いだけかな、という部分としてとらえられるような気がします。例えば、今の「やすらぎとふれあいのある家庭」と「愛情あふれる家庭」。どちらに自分が帰りたいか、どちらがある家庭に帰りたいか。その時のあれでいくと、私は「やすらぎとふれあいのある家庭」に帰りたい。「愛情」の裏返しは、「あんた！どこ行ってきたの？」と愛情はたくさんあるけれども、そう言われる家庭もあるかも知れませんが、それは人それぞれのとらえ方なので、一概に違ふとか、そういう部分ではなく、わかりやすさというところにあるのかな、と思います。

山田市長	<p>わかりました。よく理解しました。①でいいですか。はい。では①で。</p> <p>では、その下の段のところですね、僕がこの①を見た時に一つ気になったのは、「家庭が子どもたちに十分な愛情を注ぎ」とありますが、これは子どもとの関係だけではないので、おじいちゃん、おばあちゃんもいれば、奥さんや旦那さんもいるので、上の文章だと愛情を注ぐ対象が子どもだけになってしまっているのだから、「家族同士が」としたんですけれども。「和と礼を重んじる」かどうかというのは、上も下も一上は無いのであれなんですけれども、「大人が子どもたちの模範となる」というのは、「自らが模範となる」ということですね。「自ら」というのは……趣旨としては、そういうことを入れたんですけれども、「家族同士」というのは。「和と礼を重んじる」は入れない方がいいか、入れた方がいいかというのは見解が相違していますが、皆さんの方としては入れない方がいいということですね？ 皆さんとしては①でいいわけですね？ はい。皆さんが①で、と。特にご意見もないので……</p>
奥村委員	いいですか。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	<p>合わせた感じが……。例えば最初の「犬山市は、家族同士が愛情、絆で結ばれ、自らが模範となり、」あと下は同じというような……。</p> <p>僕はこの「模範」というのが、「自らが模範となる」というのが少し引がかかります。なかなか自分自身が模範ではないので、「自らが主体となり」という言葉はどうか、というふうに思います。</p>
山田市長	<p>まずは、①の「家庭が子どもたちに十分な愛情を注ぎ」というところを「家族同士が愛情、絆で結ばれ、」というふうにこの部分を入れてはどうか、というお話ですが。それはどうですか。今、奥村委員から意見がありました。</p>
小倉委員	賛成です。
山田市長	はい。
小倉委員	<p>多分、「愛情あふれる」というのを入れていきたい、ここに入れたような気がする、おじいちゃん、おばあちゃんも、という一家庭というよりはやはりお父さん、お母さん、子どもをイメージしているので、「家族同士」というのを入れるのがいいかな、と思いました。</p>
山田市長	はい。他によろしいですか。それでいいですか。
紀藤委員	<p>ごめんなさい。1行目に「家庭教育は……」－「めざす家庭像」の1行目ですね、その真ん中辺りに「未来を担う子どもたちへの大切な贈り物です」ということは、子どもたちですよ、やはり中心になっているのは。</p> <p>要するに豊かな人づくりをしていくというのは、大人も当然育てて欲しいですけども、「子どもたちを育てていく」という家庭をイメージするのかな、と僕は思ったのですが。別に家族同士が愛情で結ばれていれば、それで子どもたちに愛情も注がれるので問題はありませんが、そういうこともイメージして多分、「家庭が子どもたちに十分な愛情を注ぎ」というふうになっているのかな、というふうにとらえていました。</p>
山田市長	なるほど。
紀藤委員	当然、家族同士がいがみ合っている、いい家庭ではないので……。
山田市長	はい。
小倉委員	<p>今までは「親が」というか、大人が子どもに愛情を注いで、自分が育てていくというか、親が引っ張り上げるイメージをずっと持っていました、実際のところ、</p>

	自分が親になって自分が育つ部分がすごくあって、子どもから学んでいる部分が多かったり、親にさせてもらっている部分もあるとするなら、親が偉くて、親が引っ張っているものではないな、と思ったんですけども。どういうふうにしましょう。
紀藤委員	要するに子どもの成長とともに親も成長しているということですね。
小倉委員	そうです。
紀藤委員	それが理想的な家庭かも知れないですね。
滝教育長	だから親が子どもに対して愛情を注ぐだけではなくて、子どもだって親に対して愛情を注いでくれているんだということであれば、「家族同士が愛情、絆で結ばれ」の方が適切な表現かも知れないですね。
小倉委員	そうですね。はい。
山田市長	はい。では、そういうふうでお願いします。 確かに大人だけが模範になるものではないので、子どもの成長とともに親も成長するというのはまさにその通りだと思います。僕がここで「模範」ということを多少意識したのは、さりとてどうも大人の「大人力」というのが劣化してきているような感じがしたので、そういうことを書きましたが、今の意見を聞いていて、どういう表現がいいかわかりませんが、家族の中でも高めあって成長していくというイメージの方がいいのかな、という気はしました。具体的な表現は今はありませんが。「模範」というところから、そういうふうに変えたらどうですか、今の意見をふまえると。そういうことでどうですか。 「家族同士が愛情、絆で結ばれ、自らが模範となり」と続きますが、ここの部分をもう少し……「共に成長しあう」みたいな表現に変えるのか。
紀藤委員	よろしいでしょうか。
山田市長	はい。
紀藤委員	先ほどから、僕は気になっていますが、市長さんが「全否定された」という言葉を聞いてから、市長さんのトーンも下がっているので、僕は全否定をしているわけではなくて、「取るならこっちだよ」ということで、当然、「めざす教師像」で「感動力」というと、感動できない教師に子どもを教えることは絶対にできないので……。それから「信頼されない学校」には生徒は来ないし一公立だったら行かざるを得ないので、行くのでしょけれども、私立だったら絶対生徒は集まってこないで、「信頼される」というのは、前提として当たり前、崩れるものではないと思っています。それから色々な「学びを取り巻く環境」も、それに合わせてどんどん、どんどん課題も出てくるので、変えていかなければいけない。これも間違いではないと僕は思うので、ただ、どちらを選ぶかと言われると、「こちらの方が僕にはいいかな」というふうにとらえていますので、そんな捉え方で市長さんが思っただけだと僕はうれしいんですけども。
山田市長	それはいいです。「全否定」というのは、間を取るのがいいとは思いませんが、やはり「こういう理念も取り入れて、ここの部分で「右か左か」、「1か2か」みたいな話ではなくて、「こういう着地点もあるよね」という、そういうことがあってもいいのかな、と思ったので。ただ、議論ですから、僕も割り切っていますから、何とも思っていないですが、ただ、ずっとここに居ると僕は一人なので、「少しぐらい『お前の言っていることもそうだな』とどこかで途切れてくれてもいいがや」とーこれは率直な感想です。ですから、そういう部分だけの話です。議論なので、それはいいです。紀藤さんのおっしゃっていることも……。だからと言って

	僕が紀藤さんに何か変な感情を持つなんてことはありませんので。だから、この議論として言っていますので、大丈夫です。はい。
紀藤委員	以前、こういう「学校像」で、「子どもを通わせたい学校」そういうものを作ろうとか、「生徒が通いたい学校」。それから「教師が勤めたい学校」。一要するに語呂合わせみたいに、イメージを使つての表現もあったけれども、僕が犬山市でこのように携わってきて、「この表現はもっともな表現で、何の間違いもないな」と。市長さんがおっしゃっている「感動力」にしても「信頼される」にしても今までの学校で使ってきていますので、それも間違いではない。ただ今は、これを僕は一番犬山市に相応しいのかな、という捉え方で考えています。はい。すみません。
山田市長	本当に教育観というのは十人十色なので、何か正しくて、何が間違っているかというのは正直、なかなか難しいところだと思うので、そういう意味で僕も自分が絶対だなんて全然思っていないので、あくまでもここは議論の場ですから、私は私としての主張をやはりしていくというところで、とらえていただいて、着地させるところについては、僕もそこはしっかり自分で理解しながらいっていますので、大丈夫です。 ということで、5ページの下のところですが①のものを軸に「家族同士が愛情、絆で結ばれ」その後、「自らが模範となり…」というか、ここをどうするかですが。
滝教育長	これは1つ修正案として「犬山市は、家族同士が愛情、絆で結ばれ、関係期間や小中学校、地域などと連携し、家族みんなが成長し、心のよりどころとなる家庭づくりを支援します」というような文章ではおかしいですか。「家族みんなが成長し」というのは、お互いに一親も子どもから成長させられる部分もあるし、というようにも含んで、「家族みんなが成長し、心のよりどころとなる家庭づくりを支援します」。
山田市長	いいのではないのでしょうか。どうですか。いいですか、そんな感じで。はい。では、そういう形をお願いします。 これで全部確認できましたか。漏れていませんね？ 大丈夫ですね？
事務局 (武藤学校教育課長)	3ページの…………。
山田市長	3ページの図のところですがけれども、「人が輝き 地域と生きる〴〵のまち 犬山」の下のところ、「感性を育む学びの場づくり」ということで、これは総合計画の位置づけをそのまま引用しています。これは総合計画の中に当然、この振興計画は入っていますから、これでよろしいですか？
出席者	はい。
山田市長	整合性を持たせるということですから。よろしいですか。はい。 あとは、いいですか。漏れていませんか。ザッと見た感じは漏れていませんね。大丈夫ですね。はい。 では、長時間にわたり、本当に活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。教育振興基本計画については、若干、事務局に文言の修正をお願いした点もありますけれども、事務局の方で少し調整していただいて、最終的にどうするのですか、次の定例教の中で決めるのですか？
事務局 (武藤学校教育課長)	そうですね。直して、山田市長にも見ていただくと同時に3月の定例教の中で…………。
山田市長	すり合わせるということですね。

事務局 (武藤学校教育課長)	はい。
山田市長	<p>3月中にすり合わせていくということですので、再度、今のご意見を踏まえた最終案と言いますか、そういったものを皆さんにご確認いただくということですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それから、この見直しについては事務局で修正して、先ほど私も申し上げましたが、パブリックコメントの手続きをふまえて、年度内に策定するように進めて行くということになりますので、ご承知おきをいただきたいと思ひます。</p> <p>続いて、2件目の「教育施策の検証について」ということで、これは事務局の方からお願ひをしたいと思ひます。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>お願ひします。資料の2をお願ひします。</p> <p>本日の多忙化解消プランの検証は、「教職員の多忙化解消に向けての対策及び働き方改革をめざした新たな提言」です。「制限をすること」、「業務を割愛すること」、「取り決めること」よりも一人ひとりの働き方に関する意識改革をしたいと思っております。そのためのアイデア、示唆を盛り込みました。4月からの学校ごとの取り組みの成果が多少出て来ているような気がいたしますので、報告いたします。学校にいる時間から、正規の勤務時間と休憩時間－8時から30分を引いたものを「在校時間」と言っています。その在校時間が80時間を超えるものの比較6月と11月で比較してみました。中学校では部活動の時間がそもそも短くなりますので、単純に比較はできませんが、犬山市では6月に71%であった80時間超の在校時間のものが、11月には46.4%、26.6%ポイントを下げています。そこだけで見ては時期が違いますので、昨年度の同時期の比較をしてみました。28年度の6月と11月の変化は、小学校で、0.2%のダウン。中学校で、4.2%でした。29年度で見ますと、小学校は3.4%のダウン。中学校で19.2%のダウンということで、昨年度よりも随分大きく下げていることがうかがえます。生み出された精神的、時間的な余裕を授業改善の方のエネルギーに変えて、一人ひとりに丁寧な寄り添った指導のための時間に変えていきたいと思っております。</p> <p>資料の3をご覧ください。「部活動のガイドライン」です。多忙感や疲弊感がふくらんでいるのは、部活というよりはむしろ「不登校の生徒数」であったり、特別な対応を求められる保護者への時間であったり、新たに加わってくる「道徳の教科化」、「小学校英語」、「自殺予防教育」など学校を取り巻く課題が複雑化、困難化しているところにあります。部活動については、「多忙感の要因ではない」と主張する教員もいますが、多忙感となっていようが、いまいが、大部分が正規の勤務と言いつらい部活動においては、一定の基準を設けなければならないと思っております。また、教員の働き方改革の側面だけではなく、加熱しすぎた部活動から生徒の心身の健康を保持するための方策としても考えました。そこで策定したのが「部活動ガイドライン」です。1月中旬に4中学校を回って教員に説明をしてまいりました。1月31日に中学校の保護者にお知らせをし、2月8日の入学説明会でも説明をいたしました。</p> <p>ガイドラインの内容は、ほぼ近隣の市町村と同じものですが、早朝練習については他市町に先んじて一定の方向性を示しました。秋からは早朝練習が無くなります。学校現場は大きく変わっていくのではないかと考えています。学校ごとに違った方向で新たなステージに向かっていきますので、試行中ということもあり、差異が生じることもご了解いただきたいと思ひます。「やる気を奪うのか」という</p>

	議論もありましたが、公人としてやれる精一杯の範囲がガイドラインだと思っています。それでもまだ無理をしていただいている部分があります。その種目やその子どもたちのために時間を使える余裕がある人は、「私人として活躍の場をお願いします」というふうに言ってまわってきました。教育委員会としては、子どもたちの選択肢を減らさない努力とすでにある魅力的な活動への効果的な誘い方について模索をして参りたいと思っています。以上です。
山田市長	はい。説明は終わりました。皆さまから何か意見があれば、ご発言をお願いしたいと思いますが。いかがでしょうか。
紀藤委員	よろしいですか。質問です。
山田市長	はい。
紀藤委員	すべての学校にも説明が終わって、学校の反応はもうこれでOKということにとらえてよろしいのでしょうか。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	説明会の折りには、これには乗れないとかそういうようなことはございませんでした。4月から進めて来ておりましたので、校長からの説明通りに理解は進んでいたと思っています。保護者の方から意見があったというふうには今のところ校長からは聞いておりません。
紀藤委員	保護者からの意見というのは、どんな内容ですか。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	その説明の時とか、他のところでこういうようなことを聞いたということを聞いておりません。
山田市長	他にありますか。意見とか質問。
滝教育長	教育委員さんは皆さん、定例教でご報告させていただいた内容ですので、これに関して市長の方で何か。
山田市長	説明というのは一これも2学期制と同じですが、相手に理解一納得されることが大事です。納得してもらうためには時間をかけた方がいい。すべての人が100%完璧に納得することは絶対ありえませんが、ただどもさっきから言っているように「これはいいことなんだ」、「必要なんだ」、「問答無用で、決まったことなんだ」、「決まったから従うべきだ」こういうことではなくて、教員に対しても保護者に対しても子どもに対しても、どれだけ納得されているのかというのは確認した方がいいと思います。
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい。
千葉委員	今、市長の話に付け加えて、やはり少し、朝練がなくなることによって、朝早く子どもたちが行かなくなるというか、今までのように早くは行かなくなる。では、その対策として、早朝練習の時間に何かを取り組んでくれるのか？ という具体的なことは聞いていなかった。というようなことは私のところに聞こえてきました。確かにそうです。「朝練がなくなった。それなら8時30分までに入ればいい。8時までに入ればいい」というそういうファジーなものなのか、「朝何時から何時はコミュニケーションが取れる何かをします」とか、「そういう具体例は何も聞いていない」というということを保護者から聞いて、そう言われてみれば、「朝練はなくなりました。朝何時までに来ましょう」それだけでは少し納得できないのかな、と私は聞いていましたが。親さんとはとにかく早く出したいのです。本音は。本音とはとにかく早く部活に出て行ってほしいという多くの意見が現実にあります。一と思って私は今、市長がおっしゃったことに対して……ということを最近聞いたものですから。

滝教育長	今の「子どもさんを早く出されたい」という家庭もおありだと思いますが、逆に朝、部活に行くものだから、朝ごはんを食べずに家から出させる家庭もあります。朝部活が無くなることによって、家族で朝ごはんを一緒に食べて子どもは学校に行く、お父さんは仕事に行く、お母さんも仕事に行く、そういう家庭が増えてくるので「これは大歓迎だ」という声も一部では聞いています。だからすべての家庭に満足のいく方策というのは無いですけれども、ただ、何かはしなければいけない。それなら、こういう意見が多いからやります。こういう意見が少ないからやります。ということではなくて、やはりきちっとした考えと、それに基づいてこういうことをやる。だから、それについては今後、どんどん学校現場も含めて、教育委員会も努力していかなければいけないこともあります。こういうことについては色々な場面で話をし、ご意見を聞いていかなければいけないとは思っています。
奥村委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
奥村委員	南部中学校だったか……学校によってどうも見解が違うところが。その辺りの統一性はもう大丈夫なのでしょう。
山田市長	南中は違うの？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	よろしいでしょうか。
山田市長	はい。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	先ほども申し上げましたように、学校ごとに取り組みが違いますので、少しずらすところであったり、他に時間を見出すところであったり、その差はあります。
奥村委員	その辺りの保護者さんへの……
滝教育長	もう少し詳しい話をしますと、教育委員会からは、「朝練を30年の4月から止めたらどうだ」ということを現場には投げかけてあります。今、言った一つの学校は、「朝練は大事だ」と。「帰りの練習を止めてでも朝練はやるべきである」という校長のお考えがおありだったものですから、その辺りはいついつに朝練を止めるということではなくて、「基本的に朝練はやめるけれども、それに代わる方策を取る」という表現がしてあるのは、その部分を尊重したところです。例えば冬場の日没が早くなる時期については、ここで朝練をなくすよりは、朝時間をとって午後の部活動をなくするというのも一つの方法かな、ということを思います。もちろん朝練をなくすと言いながら、朝やって、午後の活動を無くしたら全く正反対の施策なんですけれども。ただ今、4中学校の動向を見てみると、朝の練習を無くして、午後にしっかり活動する時間をとっていくという方向で4校の共通理解を図っているというふうには聞いています。
山田市長	これは4月からそうするのですか？
滝教育長	いえ。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	秋です。
山田市長	秋？
紀藤委員	9月からですね。
山田市長	9月から？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	新人に変わるところです。

山田市長	<p>なるほど。これは2学期制と同じで生煮えの状態が進んでいってしまうと、後で「また戻せ」という話になった時に、そのせめぎ合いになってしまうので、最初が大事です。最初が。ですから、これ以上ないというぐらい丁寧にやった方がいいです。納得するまで。せめて、6割以上の人が「それは仕方がない」と思わないと。教員も子どもも親も。その努力をするのがまず前提です。その努力がなくて、また2学期制と同じで「これはいいことなんだ」と、「いいことだから正しい」、「正しいから正しい」というのは、これだけは絶対やめた方がいい。そうしないと、また同じことが起きる。ワーっと。また議会にも請願か何か出て「部活をやれ」という請願が出て、議員から採択されて「ブレる」と。ではなくて、地ならしをしっかりとやるには、いつからという期限は作る必要ないです。いいことで合意が得られてその時に時期も含めて合意を得ればいいわけなので、「この日からやります。だから理解してください」ではダメだと思います。理解をいただいた上で、「ではこの日からやります。」—この日をせめて目標—「この日からやりたいですが、どうですか。」という投げかけはありだと思います。くどいようですが、僕は「やるな」と言っているわけではなくて、そこを丁寧に—それこそ2学期制ではありませんが、受け手目線に立って、しっかり地ならしをした方がいいと思います。それをやらずにまた不満を残した形で進んでいくと、かえって余分な手間がかかると思います。そこをまたワーっと意見が出ても頬かむりして行く手法は、なかなか辛いです。2学期制はそれやってきた結果でしょう？</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>すみません。2学期制と大きく違うところは勤務の問題があるので、教員は部活動を「ねばならない」わけではなく、種目も自由に選べるし、「やらない」という選択もあるわけで、ましてや勤務の時間外に校長が命ずることもできないので、「朝練をやって欲しい」というようなご意見をもし受けているとするならば、行政として何か或いは地域として何かというところを探っていかなければいけないな、と。教員のそこに「ねばならない」というふうに持っていくことはできないので。</p>
山田市長	<p>いやいや。僕が言っているのは、どうしてもこういう類のものは、「こういう方針に決まりました」とか、今、筋論から言えば、神谷さんがおっしゃったこともわかりますが、僕が言っているのは、「やるな」と言っているのではなくて、こういうことをやることについての、理解を得る努力はとことんやった方がいいということです。そこで向き合おうとせずに、手を抜くと誤解を招いたり、間違っただけ情報が広がったり—一旦間違っただけ認識がされてしまうと、それを払拭するのは非常に大変です。ですから丁寧にやった方がいいということです。</p>
滝教育長	<p>これは、これから保護者がお集まりになられる機会に学校にお任せする部分もあるかも知れませんが、教育委員会も出向いてお話をさせていただくということも考えていますので。</p>
山田市長	<p>アンケートもとった方がいいです。要するに趣旨が理解できたか、できないかというアンケートを。「100人が100人、全員が理解しなかったらやるな」と言っているわけではなくて、やはり一定の理解は必要です。それをちゃんとデータとして検証せずに「なんとなく何も意見が出なかったの、理解してもらった」ということではなくて、声なき声を聴く努力も含めてやった方がいいです。僕の耳には複数聞こえてきていますから。「問答無用だった」とか。「決まったから仕方がない」とか。「納得できない」という声が聞こえてくるので。それは一部の声かもしれませんが、でも、わかりやすいです。「もう部活が無くなってしまおう」とか、そう</p>

	<p>いう話とか、噂というのは単純なので、そうすると「なくなるそうだよ」となるわけです。</p>
滝教育長	<p>今、いただいたご忠告を私どもなりに考えさせていただいて、不満が噴出しないような方策で進めて行きたいな、ということは思います。</p>
山田市長	<p>不満というか、納得してもらおう努力をした方がいい。完璧に1から10まで納得することはありえないと思いますが、「しょうがないな」という理解できるレベルというのはあると思いますので、そこまでは徹底的に向き合う努力をしないとダメだと思います。それはお願いします。</p>
滝教育長	<p>はい。</p>
山田市長	<p>はい。それでは2件目についてはよろしいですか。これは、これで終わらせていただきたいと思います。</p> <p>続いて自由討議ですが、時間も大分超過しておりますので、もし皆さんの方からこの際、何かあれば簡潔に言っていただければと思います。よろしいですか。自由なので、もしあれば。よろしいですか。</p> <p>では、特に無いようですので、自由討議は終わらせていただきます。</p> <p>その他ですが、事務局から何かありますか。</p>
事務局 (渡邊企画広報課主査)	<p>次回の開催ですけれども、本年度は第4回ですので、これで終了となります。次年度ですが、第1回目は5月頃を予定させていただきたいと思います。詳しい日程については、また改めて調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ということですので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、大変長時間にわたりまして、本当に熱心にご協議いただきましてありがとうございました。私も少しはっきり色々な意見を申し上げた所がありますが、これも本気でものを考えたいという私の熱意といいますか、情熱が余ったことですので、行き過ぎた発言がもしあったとすれば、お許しをいただきたいと思います。また率直に意見交換していくのが総合教育会議ですし、これだけ熱い議論をしている総合教育会議は恐らく他にはないと自負しておりますので、これからも決して私の心情がどうかとかいうことはお気になさらずに、言いたいことは全部言っていただくのがいいと思いますので、それでどうこうということはありませんので、終わればノーサイドですから。そういうことで率直にご意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、これをもちまして第4回の犬山市総合教育会議を閉じさせていただきます。お疲れ様でした。</p>